



Sun N1 System Manager 1.3 コマ ンド行リファレンスマニユア ル



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-6478-10
2006年4月

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、および Java は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマーク、Solaris、Solaris のロゴマーク、および Java Coffee Cup のロゴマークは、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Netscape Navigator および Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved. ©

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7桁/5桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun N1 System Manager 1.3 Command Line Reference Manual

Part No: 819-5139-10

目次

はじめに	9
1 コマンド行インタフェースのヘルプ	13
コマンドのヘルプ	13
help コマンド	13
コマンド行インタフェースのヒント	14
add	16
add group	17
add osprofile	17
add role	19
add server	19
add user	21
connect	21
connect server	21
create	22
create application	22
create applicationprofile	23
create dhcpconfig	25
create firmware	26
create group	27
create notification	27
create os	30
create osprofile	32
create role	35
create update	35
create user	37
delete	38
delete application	38
delete applicationprofile	39

delete dhcpconfig	39
delete firmware	39
delete group	40
delete job	40
delete notification	40
delete os	41
delete osprofile	41
delete role	42
delete server	42
delete update	43
delete user	43
discover	43
exit	45
load	45
load group	46
load guidconfig	50
load server	50
remove	55
remove group	56
remove osprofile	56
remove role	57
remove server	57
remove user	58
reset	59
reset group	59
reset server	60
set	60
set applicationprofile	60
set dhcpconfig	63
set firmware	63
set group	64
set notification	66
set os	67
set osprofile	67
set role	72
set server	72
set session	75

set user	76
set module	76
show	77
show application	77
show applicationprofile	77
show dhcpconfig	78
show firmware	78
show group	79
show job	80
show log	82
show notification	83
show os	84
show osprofile	84
show privilege	85
show role	85
show server	86
show session	88
show update	88
show user	89
show module	89
start	90
start group	90
start notification	91
start server	91
stop	92
stop group	92
stop job	93
stop notification	93
stop server	93
unload	94
unload group	94
unload server	95
オブジェクトのヘルプ	96
application	97
applicationprofile	97
dhcpconfig	98
firmware	98

group	98
guidconfig	99
job	99
log	99
notification	99
os	100
osprofile	100
privilege	100
role	100
server	101
session	101
update	101
user	102
module	102

例目次

はじめに

『Sun N1™ System Manager コマンド行リファレンスマニュアル』は、対話モードまたは非対話モードのいずれかで `n1sh help` コマンドによって表示される情報と同じ内容を示します。このマニュアルは、N1 System Manager で使用可能なすべてのコマンドのリファレンスとして使用できます。

対象読者

このマニュアルは、N1 System Manager ソフトウェアが動作するプロビジョニング可能なサーバーの管理を担当するシステム管理者を対象にしています。このマニュアルは、読者に次の基礎的な知識があるものと想定しています。

- Linux および Solaris™ オペレーティングシステム、各オペレーティングシステムが提供するネットワーク管理ツールに関する知識
- Sun Microsystems、Cisco などのさまざまなベンダーのネットワーク機器およびネットワークデバイスに関する知識
- ネットワークデバイスの相互接続およびケーブル接続に関する知識

関連マニュアル

次のマニュアル、ヘルプには、N1 System Manager のインストール、使用に役立つ情報が掲載されています。

- 『Sun N1 System Manager 1.3 の概要』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 サイト計画の手引き』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 インストールおよび構成ガイド』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 オペレーティングシステムプロビジョニングガイド』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 Troubleshooting Guide』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 ご使用にあたって』

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun の Web サイトでは、以下の追加情報を提供しています。

- マニュアル (<http://jp.sun.com/documentation/>)
- サポート (<http://jp.sun.com/support/>)
- トレーニング (<http://jp.sun.com/training/>)

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 machine_name% you have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	machine_name% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING '

コマンド例のシェルプロンプト

以下の表に、Cシェル、Bourneシェル、およびKornシェルのデフォルトのUNIX®システムプロンプト、およびスーパーユーザーのプロンプトを紹介します。

表P-2 シェルプロンプト

シェル	プロンプト
Cシェル	machine_name%
Cシェルのスーパーユーザー	machine_name#
BourneシェルおよびKornシェル	\$
BourneシェルおよびKornシェルのスーパーユーザー	#

◆◆◆ 第 1 章

コマンド行インタフェースのヘルプ

ここでは、コマンド行インタフェース (CLI) で `help` コマンドを使用して表示できるヘルプと同じ内容を示します。

CLI は次の 2 通りの方法でアクセスできます。

- `n1sh` シェルから。この場合、`N1-ok>` プロンプトを使用します。詳細は、管理サーバーで `n1sh` のマニュアルページを参照してください。
- ブラウザインタフェースから。この場合、「コマンド行」区画に `n1sh` シェルが含まれます。

コマンドのヘルプ

help コマンド

CLI のヘルプは、次の方法で表示することができます。

- `help command` - `help` と入力すると、使用可能な *command object* コマンドの一覧とそれぞれのコマンドの説明が表示されます。例: `help show`。
- `help command object` - *command object* の使用法の詳細が表示されます。例: `help show server`。
- `help object` - オブジェクトの詳細情報が表示されます。例: `help server`。

使用可能なコマンドを次の表に示します。

コマンド	機能説明
<code>add</code>	オブジェクトまたはグループにメンバーを追加します。

コマンド	機能説明
connect	サーバーのシリアルコンソールへの接続
create	N1 System Manager に新しいオブジェクトを作成(またはコピー)します。
delete	N1 System Manager からオブジェクトを削除します。
discover	管理対象にする新しいサーバーを検出します。
exit	N1-ok> シェルを終了します。
help	コマンドまたはオブジェクトに関するヘルプを表示します。help コマンドの代わりに ? を使用することもできます。help help は有効なコマンドではありません。
load	サーバーまたはサーバーグループにソフトウェアをインストールします。
remove	オブジェクトまたはグループからメンバーを削除します。
reset	サーバーまたはサーバーグループの電源をオフにしてから、オンにします。
set	サーバー、サーバーグループ、またはオブジェクトで属性を変更します。
show	オブジェクトまたはグループの概要または詳細情報を一覧表示します。
start	オブジェクトを有効にするか、コマンドを発行します。たとえばサーバーの電源を入れて起動することができます。
stop	オブジェクトを無効にします。たとえばサーバーを停止して電源を切ることができます。
unload	サーバーまたはサーバーグループからソフトウェアをアンインストールします。

指定可能なオブジェクトについては、[96 ページの「オブジェクトのヘルプ」](#)の項で説明しています。

コマンド行インタフェースのヒント

ここでは、N1 System Manager の CLI を使用する際に役立つヒントを示します。

一般的な構文

N1 System Manager コマンドの一般的な構文は次のとおりです。

```
command object [object-value] [object [object-value]]* [attribute[=][attribute-value]]*
```

- *command* - オブジェクトに対して実行する操作です。
- *object* - 実行中の動作の基礎となる、システムで定義されたオブジェクトです。通常、動作の対象はコマンドの構文にある最初のオブジェクトです。
- *object-value* - オブジェクトの値で、通常はユーザーが定義します。値に空白が含まれている場合は、引用符で囲む必要があります。

- *attribute* – 属性。動作の実行方法に影響を与える、システム定義の省略可能なオブジェクトです。
- *attribute-value* – 属性に対するユーザー定義の値です。値に空白が含まれている場合は、引用符で囲む必要があります。

簡単にするため、属性という用語は一般的にオブジェクトとキーワードの両方を表すために使用します。

ユーザー定義の名前

OS プロファイルやグループ名などのユーザー定義の名前には、数値、文字、および特定の特殊文字を使用できます。次の特殊文字は使用できません: コンマ、アスタリスク、一重引用符、二重引用符、括弧、疑問符、等号、復帰改行。

id キーワード

id キーワードは、N1 System Manager の CLI で、一部の属性値 (主に *server* 属性値) の前に使用できる、オプションのキーワードです。このキーワードは、予約済みのキーワードと同じ名前の属性値 (たとえば、*upgrade* という名前のサーバー) を指定するために使用します。

等号

等号 (=) は、N1 System Manager の CLI で属性名と属性値の間に使用できます。たとえば、次の 2 つのコマンドは同じです。

```
N1-ok> set role MyRole description myDescription
N1-ok> set role MyRole description=myDescription
```

CLI のヘルプでは、等号を使用する形式を紹介していません。

スクリプト内のコメント

n1sh スクリプトをカスタマイズして作成した場合、行頭でコメント用の文字 (#) を指定して、その行の文字が無視されるようにすることができます。詳細は、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「N1 System Manager コマンドのスクリプトを実行する」を参照してください。

複数の属性値

複数の属性値を指定できる場合は、N1 System Manager のコマンド行でコンマ区切りのリストで指定できます。次に例を示します。

```
N1-ok> set server serverA,serverB,serverC locator on
```

CLI のヘルプでは、複数の属性値は、構文の中で次のような方法で表されています。set server <server>[,<server>...]

注-コンマの間に空白は入力できません。

引用符

n1sh シェルモードでは、一重引用符と二重引用符を使用できます。必要に応じて、どちらの引用符もバックスラッシュを使用してエスケープすることができます。次に例を示します。

```
N1-ok> set role myRole description "Some Role that I've made up"
N1-ok> set role myRole description='Some Role that I\'ve made up'
```

UNIX コマンドモードでの特殊文字

n1sh の実行に使用する UNIX コマンドモードのシェルによっては、一部の特殊文字をエスケープする必要があります。たとえば、bash シェルでは、引用符は次のようにバックスラッシュでエスケープする必要があります。

```
$ n1sh set role MyRole description="\Some Role that \\\"Paul\\\" made up"
```

次のように一重引用符を使用して二重引用符をエスケープすることもできます。

```
$ n1sh set role MyRole description="'Some Role that \\\"Paul\\\" made up"'
```

特殊文字のエスケープについては、該当のシェルのマニュアルを参照してください。

n1sh シェルモードでは、特殊文字をエスケープする必要はありません。したがって上記と同じコマンドは次のようになります。

```
N1-ok> set role MyRole description="Some Role that \"Paul\" made up"
```

パスワードの非表示

コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、パスワード属性値として疑問符(?)を入力できます。コマンドを実行したときに、パスワードの入力を求められます。例としては、rootpassword 属性と agentssh 属性があります。

add

オブジェクトまたはグループにメンバーを追加します。

機能説明

add コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。group、osprofile、role、server、user。

help add *object* と入力すると、詳細情報を得ることができます。

add group

既存のサーバーグループにサーバーを追加し、複数のサーバーの管理操作を行いやすくします。新しいサーバーグループの作成方法については、[27 ページ](#)の「[create group](#)」を参照してください。

形式

- サーバーグループに特定の1つ以上のサーバーを追加する場合

```
add group group server server[,server...]
```
- 使用可能なすべてのサーバーをサーバーグループに追加する場合

```
add group group server all
```

パラメータ

- *all* - サーバーグループにすべてのサーバーを追加します。
- *group* - サーバーグループの名前です。
- *server* - 追加するサーバーの管理名です。

add osprofile

既存の OS プロファイルにディストリビューショングループ、ディスクパーティション、OS アップデート、カスタムインストールスクリプトのいずれかを追加します。

機能説明

OS プロファイルでディストリビューショングループが指定されていない場合は、デフォルトで、Entire Distribution plus OEM Support (Solaris)、Everything (Red Hat)、または Default Installation (SUSE) のいずれかのディストリビューショングループがインストールされます。有効な Solaris プロファイルには、少なくとも1つのパーティション (ルート)、有効な Linux プロファイルには少なくとも2つのパーティション (ルートおよびスワップ) が必要です。

形式

- OS プロファイルにディストリビューショングループを追加する場合

```
add osprofile osprofile distributiongroup distributiongroup
```
- OS プロファイルにディスクパーティション情報を追加する場合

```
add osprofile osprofile partition partition device device maxsize maxsize  
size size sizeoption sizeoption type type
```

- OS プロファイルに OS アップデートを追加する場合

```
add osprofile osprofile update update
```

- OS プロファイルにカスタムインストールスクリプトを追加する場合

```
add osprofile osprofile script script type type
```

パラメータ

- *device* - パーティション用のディスクスライスは。例: `c1t1d0s1` (Solaris) または `sda` (Linux)。
- *distributiongroup* - インストールするディストリビューショングループ (パッケージのグループ) の名前です。ディストリビューショングループを指定しなかった場合、デフォルトで、Entire Distribution plus OEM Support (Solaris)、Everything (Red Hat)、または Default Installation (SUSE) のいずれかのグループがインストールされます。`show os os` コマンドを使用し、OS のディストリビューショングループ一覧を表示することができます。
- *maxsize* - (Red Hat のみ) ファイルシステムの最大サイズ (M バイト単位) です。このオプションを使用し、*sizeoption* の `free` 値に制限を設けることができます。
- *osprofile* - OS プロファイルの名前です。
- *partition* - パーティションのマウントポイント名です。
- *script* - カスタムインストールスクリプトの名前です。絶対パスの形式で指定する必要があります。
- *size* - ファイルシステムのサイズ (M バイト単位) です。このオプションは、*sizeoption* を `fixed` 値に設定して指定する必要があります。
- *sizeoption* - ファイルシステムのサイズの決定方法です。有効な値には次のようなものがあります。
 - `fixed` - ファイルシステムは、*size* 属性で設定されたサイズに設定されます。
 - `free` - ディスク上の残りの未使用領域をファイルシステム用に使用します。Red Hat プロファイルの場合は、*maxsize* を指定してファイルシステムのサイズを制限できます。
- *type* (パーティションの追加) - ファイルシステムの種類です。デフォルト値は、Solaris の場合は `ufs`、Linux の場合は `ext3` です。有効な値には次のようなものがあります。
 - Solaris: `unnamed`、`swap`、または `ufs`
 - Red Hat: `ext2`、`ext3`、`swap`、または `vfat`
 - SUSE: `ext2`、`ext3`、`jfs`、`reiser`、`swap`、または `xfs`
- *type* (スクリプトの追加) - インストール中にカスタムスクリプトを実行するタイミングです。有効な値には次のようなものがあります。
 - `pre` - インストールの前にスクリプトを実行します (例: ドライブ)。
 - `post` - インストール後にスクリプトを実行します。

- `postnochroot` - インストール後にスクリプトを実行します。ただし、スーパーユーザー (root) で実行する必要はありません。
- `update` - OS アップデートの名前です。

add role

既存のロールに権限を追加します。新しいロールの作成方法については、[35 ページ](#)の「`create role`」を参照してください。

形式

- ロールにすべての権限を追加する場合

```
add role role privilege all
```

- ロールに特定の1つ以上の権限を追加する場合

```
add role role privilege privilege[,privilege...]
```

パラメータ

- `all` - ロールにすべての権限を追加します。
- `role` - ロールの名前です。権限は、システムの次のデフォルトロールには追加できません。Admin、SecurityAdmin、ReadOnly。これらのロールは定義済みであり、変更できません。
- `privilege` - ロールに追加する権限の名前です。show privilege all コマンドを使用し、指定可能な権限の一覧を表示できます。

add server

サーバーに N1 System Manager の機能を追加します。

機能説明

N1 System Manager の機能を利用するには、サーバーに機能を追加する必要があります。機能には、基本管理機能と OS 監視機能の2種類があります。基本管理機能は、基本 OS 監視、OS のアップデート、およびリモートコマンドの実行に必要です。OS 監視機能は、しきい値の監視を含む高度な OS 監視機能です。機能を追加すると、サーバーに機能がインストールされ、指定したエージェントの資格が設定され、サーバー上でその機能を利用できるようになります。OS 監視機能の場合、監視が有効でない場合は自動的に有効になります。show server の出力の「基本管理サポートの有無」フィールドと「OS 監視サポートの有無」フィールドは、サーバーの機能の現在のサポート状態を示します。

場合によっては、`upgrade` キーワードを使用してサーバーの既存の機能をアップグレードする必要があります。詳細は、『N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』を参照してください。

形式

- サーバーに OS 監視機能および基本管理機能を追加する場合

```
add server server feature osmonitor agentip agentip agentssh agentssh  
[agentsnmp agentsnmp] [agentsnmpv3 agentsnmpv3]
```

- サーバーに基本管理機能を追加する場合

```
add server server feature basemanagement agentip agentip agentssh agentssh
```

- サーバーの機能をアップグレードする場合

```
add server server feature feature upgrade [agentip agentip agentssh agentssh]
```

パラメータ

- `agentip` - サーバーで、OS 監視を含む管理機能に使用する IP アドレスを指定します。`agentip` は通常、サーバー上のプロビジョニングネットワークインタフェースの IP アドレスです。
- `agentsnmp` - サーバーで OS 監視に使用する SNMP 資格を指定します。`agentsnmp` の形式は、読み込みコミュニティ文字列です。デフォルトの SNMP 読み込みコミュニティ文字列は `public` です。
- `agentsnmpv3` - サーバーで OS 監視に使用する SNMP Version 3 資格を指定します。`agentsnmpv3` の形式は、ユーザー名/パスワードの組み合わせです。例:
`snmpv3-username/snmpv3-password`。コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符(?)を入力できます。コマンドを実行したときに、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。
- `agentssh` - サーバーで、OS 監視を含む管理機能に使用する SSH 資格を指定します。SSH ユーザーはサーバーの `root` 権限を持っている必要があります。`agentssh` の形式は、SSH 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。例:
`ssh-username/ssh-password`。コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符(?)を入力できます。コマンドを実行したときに、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。
- `basemanagement` - 基本管理機能を追加またはアップグレードします。この機能は、OS アップデートの配備およびリモートコマンドの実行に必要です。
- `feature` - 有効な値は、`basemanagement` および `osmonitor` です。
- `osmonitor` - OS 監視機能を追加またはアップグレードします。この機能には、基本管理機能も含まれます。OS 監視機能は、サーバーの OS リソースの健全性状態を監視するために必要です。詳細は、`show server` コマンドを参照してください。
- `server` - サーバーの管理名です。

- `upgrade` - 機能を最新のバージョンにアップグレードします。

add user

ユーザーにロールを追加します。ロールが追加されたユーザーは、そのロールの役割を果たすことが可能になり、そのロールに関連付けられている権限を得ることができます。

形式

- ユーザーにロールを追加します。

```
add user user role role[,role...]
```

パラメータ

- *role* - ユーザーに追加するロールの名前です。 `show role all` コマンドを使用し、使用可能で有効なロールの一覧を表示できます。
- *user* - ユーザーの名前です。

connect

サーバーのシリアルコンソールに接続します。

機能説明

`connect` コマンドは、`server` オブジェクトに使用することができます。

詳細を参照するには、`help connect server` と入力してください。

connect server

サーバーのシリアルコンソールに接続します。

機能説明

`connect server` コマンドを使用して、インストールを監視したり、管理作業を行えるようにします。ほとんどのハードウェアプラットフォームでは、ログインする最初のユーザーに、シリアルコンソール上での読み取り、書き込みの権限が付与され、次のユーザーセッションは読み取り専用モードになります。一部のプラットフォームでは、同じサーバー上での複数のシリアルコンソールセッションは許可されていません。次のエスケープシーケンスを使用すると、いつでもシリアルコンソール接続を終了できます。

- ALOM ベースのシステム: # .
- Sun Fire(TM) X4000 シリーズのシステム: ESC (
- Sun Fire V20z および Sun Fire V40z システム: ^E c .

このコマンドは、ブラウザインタフェースのコマンド行では使用できません。ただし、ブラウザインタフェースでは、「サーバーの詳細」ページで「アクション」メニューから「シリアルコンソールを開く」を選択することによってサーバーのシリアルコンソールにアクセスできます。また、このコマンドはユーザーの入力が必要であるため、`n1sh -f` コマンドで使用するカスタム N1 System Manager スクリプト内で使用しないでください。

形式

- サーバーのシリアルコンソールへの接続

```
connect server server
```

パラメータ

- *server* – サーバーの管理名です。

create

このコマンドは、N1 System Manager に新しいオブジェクトを作成します。また、N1 System Manager の外部にすでに存在するオブジェクトをコピーすることもできます。

機能説明

`create` コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。application、applicationprofile、dhcpconfig、firmware、group、notification、os、osprofile、role、update、user。

`help create object` と入力すると、詳細情報を得ることができます。

N1 System Manager へのサーバーの追加については、[43 ページ](#)の「`discover`」を参照してください。

create application

N1 System Manager にアプリケーションをコピーします。アプリケーションをコピーしたら、サーバーにアプリケーションをプロビジョニングできます。

機能説明

このリリースの N1 System Manager でプロビジョニングできるアプリケーションは N1 Grid Engine (N1GE) だけです。このアプリケーションは、Sun Download Center (SDLC) から入手できます。サポートする OS ごとに OS 固有の N1GE アプリケーションをコピーする必要があります。

OS プロファイルの動作と異なり、アプリケーションを N1 System Manager にコピーしてもデフォルトのアプリケーションプロファイルは自動的に作成されません。

形式

- N1GE アプリケーションを N1 System Manager にコピーします。

```
create application application file file[,file...] type n1ge
```

パラメータ

- *application* - アプリケーションの一意の名前です。
- *file* - コピーするアプリケーションのインストールファイルの絶対パスです。N1GE アプリケーションの *.tar.gz インストールファイルを指定できます。各 N1GE アプリケーションには n1ge-6_0u4-common.tar.gz ファイルが必要です。

create applicationprofile

アプリケーションプロファイルを作成します。

機能説明

アプリケーションプロファイルを使用して、サーバーにアプリケーションを配備できます。

このリリースの N1 System Manager でプロビジョニングできるアプリケーションは、N1 Grid Engine (N1GE) だけです。

形式

- N1GE のアプリケーションプロファイルを作成します。

```
create applicationprofile applicationprofile application application type n1ge  
[N1GE-Attributes]
```

パラメータ

- *application* - インストールするアプリケーションの名前です。
- *applicationprofile* - アプリケーションプロファイルの一意の名前です。

N1GE の属性

- *adminhomedir adminhomedir* - N1GE の管理ユーザーのホームディレクトリです。デフォルト値は `/gridware/sge` です。
- *adminuid adminuid* - N1GE の管理ユーザーの UID です。デフォルト値は `218` です。
- *adminusername adminusername* - N1GE の管理ユーザーのユーザー名です。デフォルト値は `sgeadmin` です。
- *execdport execdport* - N1GE の `execd` デーモンに使用する TCP ポートです。デフォルト値は `837` です。
- *instversion instversion* - 計算ホストと発行ホストに配備される N1GE のバージョンです。デフォルト値は存在しません。
- *lnxnfsmtopts lnxnfsmtopts* - Linux の計算ホストまたは発行ホストに “common” ディレクトリをマウントするときに使用するオプションです。このフィールドの値は、`nfsservername:nfsmountpoint nfsmountpoint nfs lnxnfsmtopts 0 0` として、各ホストの Linux の `/etc/fstab` ファイルに挿入されます。デフォルト値は `intr,softload` です。この値に空白を含めることはできません。
- *loadcritical loadcritical* - このパラメータを使用して、負荷クリティカルのしきい値を指定します。このしきい値を超えると、負荷クリティカルの警告がモニターに表示されます。負荷警告パラメータと同様に、このパラメータは、CPU 数に基づいたシステム負荷で設定します。デフォルト値は `3.00` です。
- *loadwarning loadwarning* - このパラメータを使用して、負荷警告のしきい値を指定します。このしきい値を超えると、負荷警告がモニターに表示されます。値は、OS で報告されたシステム負荷を CPU 数で割ったものです。デフォルト値は `1.00` です。
- *masterport masterport* - N1GE の `qmaster` デーモンに使用する TCP ポートです。デフォルト値は `836` です。
- *maxpendtime maxpendtime* - このパラメータを使用して、ジョブが保留になってからジョブ保留警告をモニターに表示するまでの時間を指定します。値は時間単位で設定します。デフォルト値は `24` です。
- *memcritical memcritical* - このパラメータを使用して、メモリークリティカルのしきい値を設定します。値がこのしきい値を下回ると、メモリークリティカルの警告がモニターに表示されます。M バイト単位の仮想メモリーの空き容量を値として設定します。デフォルト値は `10` です。
- *memwarning memwarning* - このパラメータを使用して、メモリー警告のしきい値を設定します。値がこのしきい値を下回ると、メモリー警告がモニターに表示されます。M バイト単位の仮想メモリーの空き容量をパラメータの値として設定します。デフォルト値は `100` です。

- `nfsmountpoint nfsmountpoint` - NFS サーバーから N1GE の “common” ディレクトリ用にマウントするディレクトリです。この値は、N1GE を使用してマスターホストを配備するときに自動的に `sgeroot/sgecell/common` に設定されます。マスターホストを配備したら、この値は編集できなくなり、計算ホストと発行ホストのその後の配備に有効です。この設定を再設定するには、マスターホストをアンインストールする必要があります。デフォルト値は `/gridware/sg/default/common` です。
- `nfsservername nfsservername` - すべての計算ホストと発行ホストが N1GE の “common” ディレクトリをマウントする NFS サーバーの名前です。このパラメータは、N1GE を使用してマスターホストを配備するときに自動的にマスターホストに設定されます。マスターホストを配備したら、この値は編集できなくなり、計算ホストと発行ホストのその後の配備に有効です。この設定を再設定するには、マスターホストをアンインストールする必要があります。デフォルト値は存在しません。
- `proxyhost proxyhost` - 監視コマンドを実行するホストを設定します。マスターホストが以前に N1GE を使用して配備された場合は、プロキシホストがこのホストに設定され、マスターをアンインストールするまで変更できません。選択するホストは N1GE の管理ホストである必要があります。管理ホストではなかった場合、ほかのホストのインストールとアンインストール、および監視に失敗する可能性があります。デフォルト値は存在しません。
- `sgecell sgecell` - 配備に使用する N1GE のセル名です。デフォルト値は `default` です。
- `sgeroot sgeroot` - N1GE のファイルをインストールするルートディレクトリです。ファイルはすべてのホストでこのディレクトリにインストールされます。デフォルト値は `/gridware/sg` です。
- `solnfsmtopts solnfsmtopts` - Solaris の計算ホストまたは発行ホストに “common” ディレクトリをマウントするときに使用するオプションです。このフィールドの値は、`nfsservername:nfsmountpoint nfsmountpoint nfs -yes solnfsmtopts` として、各ホストの Solaris の `/etc/vfstab` ファイルに挿入されます。デフォルト値は存在しません。この値に空白を含めることはできません。

create dhcpconfig

DHCP 構成の新しいインスタンスを作成します。

形式

- DHCP 構成の新しいインスタンスを作成します。

```
create dhcpconfig dhcpconfig defaultgw defaultgw dns1 dns1 domain domain
highip highip lowip lowip netmask netmask network network
[dns2 dns2] [dns3 dns3] [domain2 domain2]
```

パラメータ

- *defaultgw* - デフォルトのゲートウェイの IP アドレスを指定します。
- *dhcpconfig* - DHCP 構成の一意の名前です。
- *dns1* - 最初の DNS サーバーの IP アドレスを指定します。
- *dns2* - 2 番目の DNS サーバーの IP アドレスを指定します。
- *dns2-3* - 3 番目の DNS サーバーの IP アドレスを指定します。
- *domain* - 最初のドメイン名を指定します。
- *domain2* - 2 番目のドメイン名を指定します。
- *highip* - DHCP 構成内で最高の IP 値の IP アドレスを指定します。
- *lowip* - DHCP 構成内で最低の IP 値の IP アドレスを指定します。
- *netmask* - DHCP 構成のネットマスクを指定します。
- *network* - DHCP 構成の基本ネットワークの IP アドレスを指定します。

create firmware

N1 System Manager に、ファームウェアアップデートをコピーします。これにより、ファームウェアアップデートをサーバーにインストールできます。

形式

- N1 System Manager に、ファームウェアアップデートをコピーします。

```
create firmware firmware [description description] model model [,model]
[type type] url url vendor vendor [version version]
```

パラメータ

- *description* - ファームウェアアップデートの説明です。
- *firmware* - ファームウェアアップデートの一意の名前です
- *model* - ファームウェアアップデート用の有効なハードウェアシステムのモデルの名前です。有効な値には次のようなものがあります。
 - NETRA-240 - Netra(TM) 240
 - NETRA-440 - Netra 440
 - SF-T1000 - Sun Fire T1000
 - SF-T2000 - Sun Fire T2000
 - SF-V210 - Sun Fire V210
 - SF-V240 - Sun Fire V240
 - SF-V250 - Sun Fire V250
 - SF-V440 - Sun Fire V440
 - V20z - Sun Fire V20z
 - V40z - Sun Fire V40z
 - X4100 - Sun Fire X4100
 - X4200 - Sun Fire X4200

- *type* - ファームウェアアップデートの種類です。この属性は、Sun Fire V20z および Sun Fire V40z システムのファームウェアアップデートの場合のみ必要です。有効な値には次のようなものがあります。
 - BIOS - サーバプラットフォームの BIOS
 - PIC - サービスプロセッサのオペレータパネル
 - SP - サービスプロセッサ
- *url* - コピーするファームウェアアップデートへの URL パスです。管理サーバーからアクセス可能なファイルの場合は `file:///`、Web サイト上に存在するファイルの場合は `http://` を使用します。サーバーの最新のファームウェアアップデートを入手する方法については、ハードウェアのマニュアルを参照してください。
例: `file:///mydir/firmware/bios.sp` または
`http://10.5.157.11/fw/v20z/v2.1.0/16b/bios.sp`
- *vendor* - ファームウェアアップデートベンダーの名前です。有効な値は、Sun です。
- *version* - ファームウェアアップデートのバージョン番号です。

create group

新しいサーバーグループを作成します。ビジネスまたは管理上の必要性に応じてサーバーをグループにまとめることができます。

形式

- 新しいサーバーグループを作成し、サーバーを追加する場合

```
create group group server server[,server]
```
- 新しいサーバーグループを作成し、すべてのサーバーを追加する場合

```
create group group server all
```

パラメータ

- *all* - サーバーグループにすべてのサーバーを追加します。
- *group* - 新しいサーバーグループの名前です。
- *server* - サーバーの管理名です。

create notification

新しい通知規則を作成します。

形式

- 新しい通知規則を作成します。

```
create notification notification destination destination topic topic  
type type [description description]
```

パラメータ

- *description* – 通知規則の説明です。
- *destination* – 通知の送信先です。この値は、指定されている *type* に対応している必要があります。有効な値には次のようなものがあります。
 - *email-addresses* – 電子メールアドレス (複数の場合はコンマで区切る) です。
 - *script* – 通知の管理に使用するカスタムの Bourne シェルスクリプトの絶対パスです。スクリプトは root ユーザーが実行できる必要があります。
 - *snmp-host[:port]* – SNMP ホストです。 *snmp-host* は有効な SNMP ホスト名、 *port* はそのホスト上の有効なポートです。
- *notification* – 通知規則の名前です。
- *topic* – 通知のトリガとなるイベントの種類です。有効な値には次のようなものがあります。
 - Action.Logical.FirmwareCreate – ファームウェア作成完了
 - Action.Logical.FirmwareDelete – ファームウェア削除完了
 - Action.Logical.JobCompleted – ジョブ完了
 - Action.Logical.JobStarted – ジョブ開始
 - Action.Logical.JobTimedOut – ジョブのタイムアウト
 - Action.Logical.ProfileCreate – OS プロファイル作成完了
 - Action.Logical.ProfileDelete – OS プロファイル削除完了
 - Action.Logical.OSDeployComplete – OS 配備完了
 - Action.Logical.OSDeployStart – OS 配備開始
 - Action.Physical.AddCoreJobSuccess – 基本管理機能追加完了
 - Action.Physical.AgentIPJobSuccess – 管理機能の設定変更完了
 - Action.Physical.AlreadyKnown – 検出済み時のサーバー検出
 - Action.Physical.Discovered – サーバー検出済み
 - Action.Physical.DriverNotFound – サーバー検出時にドライバなし
 - Action.Physical.FWNotCompatible – ファームウェアレベルは、互換性がないかサポートされていない
 - Action.Physical.InitialAddOsmJobSuccess – OS 監視機能および基本管理機能の追加完了
 - Action.Physical.IPUnreachable – サーバー検出時に IP アドレス到達不能
 - Action.Physical.LoadUpdateSuccess – OS アップデートの配備成功
 - Action.Physical.LoadUpdateFailure – OS アップデートの配備失敗

- `Action.Physical.LoadUpdateCanceled` – OS アップデートの配備取り消し
- `Action.Physical.MultipleAuths` – サーバー検出時に複数の権限
- `Action.Physical.MultipleIPs` – サーバー検出時に複数の IP アドレス
- `Action.Physical.RemoteCmdFailure` – リモートコマンド失敗
- `Action.Physical.RemoteCmdSuccess` – リモートコマンド成功
- `Action.Physical.RemoteCmdTimedOut` – リモートコマンドのタイムアウト
- `Action.Physical.RemoteCmdUnauthorized` – リモートコマンドの権限なし
- `Action.Physical.RemoveOsmJobSuccess` – OS 監視機能の削除完了
- `Action.Physical.ServerDelete` – サーバーの削除完了
- `Action.Physical.ServerStateChange` – サーバーの変更完了
- `Action.Physical.Unauthorized` – サーバー検出の権限なし
- `Action.Physical.UnloadUpdateSuccess` – OS アップデートのアンロード成功
- `Action.Physical.UnloadUpdateFailure` – OS アップデートのアンロード失敗
- `Action.Physical.UnloadUpdateCanceled` – OS アップデートのアンロード取り消し
- `EReport.Logical.ThresholdExceeded` – OS リソースしきい値超過
- `EReport.Physical.DomainException` – ドメイン例外
- `EReport.Physical.Exception` – リモートコマンド例外
- `EReport.Physical.FWGMgmtException` – ファームウェアアップデート例外
- `EReport.Physical.IOException` – 入出力例外
- `EReport.Physical.OpGrpException` – サーバー検出操作グループ例外
- `EReport.Physical.RemoteCmdUnknownOS` – リモートコマンドで未知の OS
- `EReport.Physical.RemoteCmdUnknownServer` – リモートコマンドで不明なサーバー
- `EReport.Physical.ThresholdExceeded` – ハードウェアの健全性しきい値超過
- `Lifecycle.Logical.AddServer` – グループへのサーバー追加完了
- `Lifecycle.Logical.ChangeSessionRole` – セッションロール変更完了
- `Lifecycle.Logical.CreateGroup` – グループの作成完了
- `Lifecycle.Logical.CreateUpdate` – OS アップデートの作成完了
- `Lifecycle.Logical.DeleteGroup` – グループの削除完了
- `Lifecycle.Logical.DeleteUpdate` – OS アップデートの削除完了
- `Lifecycle.Logical.RemoveServer` – グループからのサーバーの削除完了
- `Lifecycle.Physical.DBUpdateFailed` – ファームウェアアップデートでデータベースの更新失敗
- `Lifecycle.Physical.InvalidState` – ファームウェアアップデートで無効なデバイス状態
- `Lifecycle.Physical.ObjectJobNotFound` – 処理用のサーバーなし

- `Lifecycle.Physical.UpdateSucceeded` – ファームウェアのアップデート成功
- `type` – 通知の送信方法です。有効な値は `email` (電子メールアドレスに送信)、`script` (カスタムスクリプトに送信)、または `snmp` (SNMP ホストに送信) です。

create os

サーバーの OS ディストリビューションを作成します。

機能説明

このコマンドは次の3通りの方法で使用します。

– Windows OS の場合は、既存の RIS サーバーへのリンクを設定します。

– Solaris または Linux OS の場合は、ISO ファイル、CD、または DVD から OS のイメージをコピーします。N1 System Manager は、Solaris OS CD および CD ISO ファイルのコピーはサポートしていないことに注意してください。コピーには、Solaris DVD または DVD ISO ファイルを使用してください。

– ディスクレスクライアントを設定するには、ディスクレスクライアントのイメージへのリンクを設定します。ディスクレスクライアントの機能は、Windows OS では使用できません。

Solaris と Linux OS のイメージのコピーについて

Solaris と Linux OS のディストリビューションは、さまざまな管理サーバーと OS の組み合わせによって、異なる場所に保存されます。詳細は、『N1 System Manager サイト計画の手引き』を参照してください。

複数枚のインストール CD から OS ディストリビューションをコピーする場合は、同じ OS ディストリビューション名を指定して `create os` コマンドを複数回実行する必要があります。たとえば2枚の CD で提供されている OS ディストリビューションをコピーする場合は、最初の CD を挿入してから、`create os` コマンドを実行し、そのジョブが完了するのを待ちます。最初のジョブが完了したら、2枚目の CD を挿入し、再度 `create os` コマンドを実行してそのジョブが完了するのを待ちます。2つ目のジョブが完了すると、OS ディストリビューションのインストールが成功したことになります。

SUSE Linux Enterprise Server 9 SP1 ディストリビューションをコピーするときは、`create os` コマンドを複数回実行する必要があります。最初に、SLES9 基本ディストリビューションをコピーします。基本ディストリビューションのコピーが完了したら、SLES9 Update 1 ディストリビューションをコピーできます。

Sun Fire V20z サーバー用に設定されたデフォルトの OS プロファイルが、新しく作成される OS ディストリビューションごとに、OS ディストリビューションと同じ名前で自動的に作成されます。デフォルトのプロファイルは、例として示されます。ハードウェアに合わせてデフォルトのプロファイルを更新するか、新しいプロファイルを作成できます。 `show osprofile osprofile` コマンドで、OS プロファイルの構成情報を表示できます。

形式

- Solaris または Linux OS のイメージを ISO ファイルからコピーする場合

```
create os os file file[,file...] type type
```

- Solaris または Linux OS のイメージをインストール CD/DVD からコピーする場合

```
create os os cdrom cdrom type type
```

- 既存の Windows RIS サーバーへのリンクを設定する場合

```
create os os type windows arch arch languageedition languageedition  
rissagepath rissagepath version version
```

- ディスクレスクライアントのイメージへのリンクを設定する場合

```
create os os type type format diskless kernelimage kernelimage  
[bootimage1 bootimage1] [bootimage2 bootimage2] [tftpserver tftpserver]
```

パラメータ

Solaris または Linux のイメージをコピーする場合

- *cdrom* - インストール CD/DVD の絶対パスです。Solaris DVD の場合、スライスをパスの一部として指定する必要があります。例: /cdrom/cdrom/s2。
- *file* - 管理サーバーからアクセス可能な ISO ファイルの名前です。絶対パスの形式で指定する必要があります。
- *type* - OS の種類です。有効な値は、redhat、solaris、または suse です。
- *os* - OS ディストリビューションの名前です。

Windows RIS サーバーへのリンクを設定する場合

- *arch* - インストールするシステムのアーキテクチャーです。有効な値は、amd64 (AMD ベースのシステム) または i386 (Intel ベースのシステム) です。
- *languageedition* - ユーザーが Web ページとその他の内容を別の言語と文字セットに符号化して表示できる言語サポートです。タブ補完機能を使用すると有効な値が表示されます。
- *os* - OS ディストリビューションの名前です。
- *rissagepath* - RIS サーバーでの Windows ディストリビューションのパスです。例: D:\win2003se
- *version* - Windows のバージョンです。有効な値には次のようなものがあります。
 - 2000AS - Windows 2000 Advanced Server
 - 2000SS - Windows 2000 Standard Server
 - 2003EE - Windows 2003 Enterprise Edition
 - 2003EESP1 - Windows 2003 Enterprise Edition Service Pack 1
 - 2003SE - Windows 2003 Standard Edition

- 2003SESP1 – Windows 2003 Standard Edition Service Pack 1
- 2003WE – Windows 2003 Web Edition

ディスクレスクライアントのイメージへのリンクを設定する場合

- *bootimage1* – 最初の起動イメージの URL です。
- *bootimage2* – 2 番目の起動イメージの URL です。
- *kernelimage* – カーネルイメージの URL です。
- *os* – OS ディストリビューションの名前です。
- *tftpserver* – tftp サーバーの IP アドレスです。デフォルトは管理サーバーの IP アドレスです。
- *type* – OS の種類です。有効な値は、redhat、solaris、または suse です。

create osprofile

新しい OS プロファイルを作成します。

機能説明

Solaris と Linux の OS プロファイルの場合、OS プロファイルを使用できるようにするには、`add osprofile` コマンドを使用して、ディストリビューショングループ、パーティション情報、リソース、およびスクリプトを OS プロファイルに追加する必要があります。

このコマンドを使用し、既存のプロファイルのクローン(コピー)を作成することもできます。サーバーのインストールに使用したプロファイルを変更するか、そのコピーを作成する場合は、このコマンドを使用する必要があります。

形式

- Solaris または Linux の新しい OS プロファイルを作成する場合

```
create osprofile osprofile os os rootpassword rootpassword
[description description] [flar flar] [language language] [timezone timezone]
```

- Windows の新しい OS プロファイルを作成する場合

```
create osprofile osprofile os os rootpassword rootpassword
fullname fullname organizationname organizationname productkey productkey
[Optional-Windows-Attributes]
```

- ディスクレスクライアントの新しい OS プロファイルを作成する場合

```
create osprofile osprofile os os [description description]
[nfsopts nfsopts [, nfsopts] ] [ramdisksize ramdisksize]
```

- 既存の OS プロファイルのコピーを作成する場合


```
create osprofile osprofile clone oldprofile
```

パラメータ

Solaris と Linux のプロファイル

- *description* - 新しい OS プロファイルの説明です。
- *flar* - (Solaris のみ) フラッシュアーカイブファイルへの絶対パスです。
- *language* - インストールでのデフォルトの言語です。デフォルト値は en_US (英語) です。

Linux プロファイルの場合、有効な値は cs_CZ、da_DK、de_DE、en_US、es_ES、fr_FR、is_IS、it_IT、ja_JP.eucJP、ko_KR.eucKR、nl_NL、no_NO、pt_PT、ru_RU.k0I8r、sl_SI、sv_SE、uk_UA、zh_CN.GB2312、zh_TW.Big5 です。

Solaris プロファイルの場合、有効な値は C、en_US.ISO8859-15、en_US.ISO8859-1、en_US です。

- *os* - インストールする OS ディストリビューションの名前です。
- *osprofile* - 新しい OS プロファイルの名前です。
- *rootpassword* - インストール後のサーバーの root パスワードです。コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符 (?) を入力できます。コマンドを実行したときに、パスワードの入力を求められます。
- *timezone* - インストール場所のタイムゾーンです。デフォルト値は gmt です。

Linux プロファイルの場合、有効な値は timeconfig コマンドで示されるタイムゾーンのいずれかです。

Solaris プロファイルの場合、有効な値は、Solaris システム上の /usr/share/lib/zoneinfo ディレクトリにあるディレクトリおよびファイルに含まれています。timezone 値は、/usr/share/lib/zoneinfo ディレクトリへの相対パス名です。たとえば、米国の山岳部標準時の timezone 値は US/Mountain です。日本の timezone 値は Japan です。

Windows のプロファイル

- *fullname* - ユーザーのフルネームを引用符で囲んで指定します。
- *organizationname* - 組織名を引用符で囲んで指定します。
- *os* - インストールする OS ディストリビューションの名前です。
- *osprofile* - 新しい OS プロファイルの名前です。
- *productkey* - Windows の各インストールのプロダクトキーです。
- *rootpassword* - インストール後のサーバーの root/管理者のパスワードです。コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符 (?) を入力できます。コマンドを実行したときに、パスワードの入力を求められます。

Windows の省略可能な属性

- *description* *description* - 新しい OS プロファイルの説明です。

- `domainadmin domainadmin` - ドメイン内にシステムアカウントを作成する権限があるユーザーアカウントの名前です。
- `domainadminpassword domainadminpassword` - `domainadmin` ユーザーアカウントのパスワードです。
- `firstloginscript firstloginscript` - インストールの最後の設定段階後にユーザーが初めてログオンしたときに実行するコマンドを含むファイルの絶対パスです。この値は `\directory-path` である必要があります。
- `joindomain joindomain` - システムのドメイン名です。
- `joinworkgroup joinworkgroup` - システムのワークグループ名です。
- `language language` - インストールのデフォルトの言語/ロケールです。有効な値については、<http://www.microsoft.com/globaldev/reference/lcid-all.mspx> を参照してください。
- `languagegroup languagegroup` - インストールの言語グループです。タブ補完機能を使用すると有効な値が表示されます。
- `licensingmode licensingmode` - Windows を接続クライアント数モードでインストールするか、サーバー数モードでインストールするかを指定します。有効な値は `perseat` および `peruser` です。
- `licenseperserver licenseperserver` - サーバーに対して購入したクライアントライセンス数です。有効な値は数値です。
- `oemdriverpath oemdriverpath` - OEM の PnP ドライバがあるフォルダへの絶対パスです。この値は `\directory-path` である必要があります。
- `primarydnserver primarydnserver` - 主 DNS サーバーの IP アドレスです。 `joindomain` 属性と同時にこの属性が必要です。
- `repartition repartition` - システムの最初のドライブのパーティションをすべて削除し、NTFS ファイルシステムで再フォーマットするかどうかを指定します。有効な値は `true` および `false` です。
- `secondarydnserver secondarydnserver` - 二次 DNS サーバーの IP アドレスです。 `joindomain` 属性と同時にこの属性が必要です。
- `targetpath targetpath` - Windows をインストールするフォルダの絶対パスです。デフォルトは `\windows` です。
- `timezone timezone` - インストール場所のタイムゾーンです。例: GMT Standard Time
- `wtsallowconnection wtsallowconnection` - ほかのシステムからターミナルサーバーに接続可能にするかどうかを指定します。有効な値は `true` および `false` です。
- `wtsenable wtsenable` - ターミナルサーバーのインストールを可能にするかどうかを指定します。有効な値は `true` および `false` です。
- `wtslicensingmode wtsenable` - ターミナルサーバーでクライアントアクセスライセンス (CAL) を管理する方法を指定します。有効な値は `perseat` および `peruser` です。
- `wtspermissionssetting wtspermissionssetting` - セッション中のターミナルサーバーのセキュリティモードです。有効な値は `admin` および `all` です。

ディスクレスクライアントのプロファイル

- *description* - 新しい OS プロファイルの説明です。
- *nfsops* - NFS オプションを *option/value* 形式で指定します。
- *ramdisksize* - RAM ディスクの容量です。デフォルトは 512M バイトです。
- *os* - インストールする OS ディストリビューションの名前です。
- *osprofile* - 新しい OS プロファイルの名前です。

create role

新しいロールを作成します。権限が指定されない限り、新しいロールはデフォルトにより権限追加しません。

形式

- 1つ以上の権限を持つ新しいロールを作成します。

```
create role role [description description]
[privilege privilege[,privilege...]]
```

パラメータ

- *description* - 新しいロールの説明です。
- *privilege* - ロールに追加する権限の名前です。show privilege all コマンドを使用し、指定可能な権限の一覧を表示できます。add role コマンドを使用し、あとで権限を追加することもできます。
- *role* - 新しいロールに使用する名前です。

create update

N1 System Manager に OS アップデートをコピーします。すると、OS アップデートをサーバーにインストールできます。

機能説明

さまざまな種類の OS アップデートをコピーできます。Linux オペレーティングシステム用の RPM、Solaris オペレーティングシステム用のパッケージまたはパッチがあります。デフォルトでは、load コマンドによって、対応するネイティブの OS コマンドを使用して OS アップデートがインストールされます。ただし、デフォルトのインストールに優先するインストールスクリプトを指定して、カスタムインストールを実行できます。詳細は、『Sun N1 System Manager 管理ガイド』の「パッケージ、パッチ、および RPM の管理」を参照してください。

形式

- 標準の Linux RPM、Solaris パッケージ、または Solaris パッチをコピーする場合

```
create update update file file ostype ostype[,ostype...][adminfile adminfile]
[installscriptfile installscriptfile] [responsefile responsefile]
```

- カスタムの OS アップデートインストールのインストールスクリプトで使用する標準以外のファイルをコピーする場合

```
create update update updatetype other file file ostype ostype[,ostype...]
installscriptfile installscriptfile [adminfile adminfile] [description description]
[release release] [responsefile responsefile] [vendor vendor] [version version]
```

パラメータ

- *adminfile* - (Solaris パッケージのみ) 管理ファイルの絶対パスです。
- *description* - OS アップデートの説明です。通常はパッケージ、パッチ、または RPM の標準名です。
- *file* - 管理サーバーまたは URL からアクセスできる Linux RPM、Solaris パッケージ、または Solaris パッチファイルの絶対パスです。updatetype other を指定しない場合は、次のソースが使用可能です。

- Linux RPM - 1 つの .rpm ファイルです。
- Solaris パッケージ - 有効なデータストリーム形式の .pkg ファイルです。1 つ以上のパッケージが含まれます。 .pkg 拡張子は不要です。1 つ以上のパッケージを含む .tar ファイルを指定することもできます。 .tar ファイルに複数のパッケージが含まれる場合は、インストールスクリプトを指定する必要があります。

インストールスクリプトを使用しない場合、.tar ファイル名は、tar の展開後の最上位ディレクトリ名と同じである必要があります。たとえば tar ファイルが SUNWstade.tar の場合、tar の展開後の最上位ディレクトリ名は SUNWstade である必要があります。

- Solaris パッチ - パッチが 1 つ含まれる *.zip ファイルです。

例: /tmp/test-i386.rpm または http://updatesite1/rpms/test-i386.rpm

- *ostype* - OS アップデートと互換性がある OS バージョンのリストです。追加する OS アップデートの種類は、指定する OS の種類と一致する必要があります。一般に、Solaris OS のアップデートでは、有効な OS の種類は 1 つだけです。有効な値には次のようなものがあります。
 - redhat-as3 - Red Hat Enterprise Linux AS 3.0
 - redhat-as3-64 - Red Hat Enterprise Linux AS 3.0, 64 ビット
 - redhat-as4 - Red Hat Enterprise Linux AS 4.0
 - redhat-as4-64 - Red Hat Enterprise Linux AS 4.0, 64 ビット
 - redhat-es3 - Red Hat Enterprise Linux ES 3.0
 - redhat-es3-64 - Red Hat Enterprise Linux ES 3.0, 64 ビット
 - redhat-es4 - Red Hat Enterprise Linux ES 4.0
 - redhat-es4-64 - Red Hat Enterprise Linux ES 4.0, 64 ビット
 - redhat-ws3 - Red Hat Enterprise Linux WS 3.0
 - redhat-ws3-64 - Red Hat Enterprise Linux WS 3.0, 64 ビット

- `redhat-ws4` – Red Hat Enterprise Linux WS 4.0
 - `redhat-ws4-64` – Red Hat Enterprise Linux WS 4.0, 64 ビット
 - `solaris9sparc` – Solaris 9 7/05 SPARC 版
 - `solaris9x86` – Solaris 9 7/05 x86 版
 - `solaris10sparc` – Solaris 10 SPARC 版
 - `solaris10x86` – Solaris 10 x86 版
 - `suse-es9` – SUSE Linux Enterprise Server 9
 - `suse-es9-64` – SUSE Linux Enterprise Server 9, 64 ビット
 - `suse-pro92` – SUSE Professional Edition 9.2
 - `suse-pro92-64` – SUSE Professional Edition 9.2, 64 ビット
 - `suse-pro93` – SUSE Professional Edition 9.3
 - `suse-pro93-64` – SUSE Professional Edition 9.3, 64 ビット
- `installscriptfile` – パッケージ、パッチ、または RPM のインストールに使用する実行可能な Bourne (`/bin/sh`) シェルスクリプトの絶対パスです。インストールスクリプトを指定すると、OS アップデートのインストールに使用する `load` コマンドによって OS アップデートファイルとインストールスクリプトの両方が管理対象サーバーの `/tmp` ディレクトリにコピーされます。この動作によって、パッケージ、パッチ、または RPM のインストールをカスタマイズできます。
- `updatetype other` 属性を指定する場合は、`installscript` が必要で、`.tgz`、`.tar`、`.z`、または `.zip` の任意の種類ソースファイルをコピーできます。
- `release` – OS アップデートのリリースです。通常はバージョンのビルド番号を指します。
 - `responsefile` – (Solaris パッケージのみ) 応答ファイルの絶対パスです。
 - `update` – OS アップデートの名前です。
 - `updatetype other -file` ソースが N1 System Manager で認識できない形式なので、OS アップデートをインストールするには `installscriptfile` 属性を指定する必要がありますを示します。この属性を指定すると、OS アップデートのメタデータは自動的に抽出されず、情報を指定しない限り `description`、`vendor`、および `version` の各属性値が空になります。
 - `vendor` – OS アップデートベンダーの名前です。
 - `version` – OS アップデートのバージョンです。

create user

N1 System Manager の新しいユーザーを作成します。

機能説明

ユーザーは、管理サーバーの OS にすでに存在する必要があります。ロールが指定されない限り、新しいユーザーはデフォルトによりロール追加しません。

形式

- 1つ以上のロールを持つ N1 System Manager の新しいユーザーを作成します。

```
create user user [role role [,role...]]
```

パラメータ

- role* - ユーザーに追加するロールの名前です。show role all コマンドを使用し、使用可能で有効なロールの一覧を表示できます。add user コマンドを使用し、あとでロールを追加することもできます。
- user* - 新しいユーザーの名前です。名前は、管理サーバーのオペレーティングシステム上の対応するユーザーと同じである必要があります。

delete

N1 System Manager からオブジェクトを削除します。

機能説明

delete コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。application、applicationprofile、dhcpconfig、firmware、group、job、notification、os、osprofile、role、server、update、user。

help delete *object* と入力すると、詳細情報を得ることができます。

delete application

N1 System Manager からアプリケーションを削除します。

機能説明

このリリースの N1 System Manager でプロビジョニングできるアプリケーションは N1 Grid Engine (N1GE) だけです。

現在サーバーに配備されているアプリケーションは削除できません。

形式

- N1GE アプリケーションを N1 System Manager から削除します。

```
delete application application type n1ge
```

パラメータ

- application* - アプリケーションの名前です。

delete applicationprofile

アプリケーションプロファイルを削除します。

機能説明

このリリースの N1 System Manager でプロビジョニングできるアプリケーションは N1 Grid Engine (N1GE) だけです。

プロファイルとともにインストールされたマスターホストがアンインストールされていない場合は、N1GE のアプリケーションプロファイルを削除できません。

形式

- N1GE のアプリケーションプロファイルを N1 System Manager から削除します。

```
delete applicationprofile applicationprofile type n1ge
```

パラメータ

- *applicationprofile* - アプリケーションプロファイルの名前です。

delete dhcpconfig

DHCP 構成を N1 System Manager から削除します。

形式

- DHCP 構成を削除します。

```
delete dhcpconfig dhcpconfig
```

パラメータ

- *dhcpconfig* - DHCP 構成の名前です。

delete firmware

N1 System Manager から、ファームウェアアップデートを削除します。

形式

- ファームウェアアップデートを削除します。

```
delete firmware firmware
```

パラメータ

- *firmware* - ファームウェアアップデートの名前です。

delete group

サーバーグループを削除します。N1 System Manager からサーバーが削除されるわけではありません。

形式

- サーバーグループを削除します。

```
delete group group
```

パラメータ

- *group* - 削除するサーバーグループの名前です。

delete job

ジョブを削除します。

形式

- 特定のジョブを削除する場合

```
delete job job
```

- すべてのジョブを削除する場合

```
delete job all
```

パラメータ

- *all* - すべてのジョブを削除します。
- *job* - ジョブの識別番号です。

delete notification

通知規則を削除します。

形式

- 通知規則を削除します。

```
delete notification notification
```

パラメータ

- *notification* - 削除する通知規則の名前です。

delete os

N1 System Manager から OS ディストリビューションを削除します。

機能説明

OS ディストリビューションは、サーバーに配備されていても、削除できます。ただし、OS ディストリビューションを削除するには、その前に `delete osprofile` コマンドを使用して、関連付けられているすべての OS プロファイルを管理サーバーから削除する必要があります。

形式

- OS ディストリビューションを削除します。

```
delete os os
```

パラメータ

- *os* - 削除する OS ディストリビューションの名前です。

delete osprofile

OS プロファイルを削除します。

機能説明

OS プロファイルは、サーバーに配備されていても、削除できます。ただし、使用中の (サーバーにアクティブに配備されている) プロファイルを削除することはできません。OS プロファイルが使用中かどうかを確認するには、`show osprofile` コマンドを使用します。

形式

- OS プロファイルを削除します。

```
delete osprofile osprofile
```

パラメータ

- *osprofile* - 削除する OS プロファイルの名前です。

delete role

ロールを削除します。ユーザーに割り当てられている場合、ロールは削除できません。

形式

- ロールを削除します。

```
delete role role
```

パラメータ

- *role* - 削除するロールの名前です。

delete server

N1 System Manager からサーバーを削除します。そのサーバーは、`show server all` コマンドで得られる一覧に表示されなくなります。

形式

- N1 System Manager から、すべてのサーバーを削除する場合

```
delete server all
```

- N1 System Manager から、特定のサーバーを削除する場合

```
delete server server
```

パラメータ

- *all* - すべてのサーバーを N1 System Manager から削除します。
- *server* - サーバーの管理名です。

delete update

N1 System Manager から OS アップデートを削除します。

形式

- OS アップデートを削除します。

```
delete update update
```

パラメータ

- *update* - 削除する OS アップデートの名前です。

delete user

N1 System Manager のユーザーを削除します。管理サーバーの OS からユーザーが削除されることはありません。

形式

- N1 System Manager のユーザーを削除します。

```
delete user user
```

パラメータ

- *user* - 削除するユーザーの名前です。

discover

N1 System Manager の管理対象にする新しいサーバーを検出して追加します。

機能説明

検出対象にする新しいサーバーの設定については、『Sun N1 System Manager サイト計画の手引き』を参照してください。

サーバーは、管理ネットワークインタフェース (SP ベースの検出)、プロビジョニングネットワークインタフェース (OS ベースの検出)、または MAC アドレス (手動検出) の 3 通りの方法で検出できます。

SP ベースの検出の場合は、各ハードウェアプラットフォームに、検出されるための最低限の資格が必要です。資格を指定しなかった場合に検出プロセスによって使用されるシステム固有のデフォルトの資格の一覧については、『Sun N1 System Manager サイト計画の手引き』を参照してください。

サーバーで使用可能な N1 System Manager の機能は、サーバーの検出方法によって異なります。詳細は、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「サーバーの検出」の章を参照してください。

形式

- 管理ネットワークインタフェースを使用してサーバーを検出する場合 (SP ベースの検出)

```
discover ip[,ip...] format ip [group group] [ipmi ipmi] [snmp snmp] [ssh ssh]
[telnet telnet]
```

- プロビジョニングネットワークインタフェースを使用してサーバーを検出する場合 (OS ベースの検出)

```
discover ip[,ip...] format ip ssh ssh [group group] [ipmi ipmi] [snmp snmp]
[telnet telnet]
```

- MAC アドレスを使用してサーバーを検出する場合 (手動検出)

```
discover file format file [group group]
```

パラメータ

- *file* - サーバーの MAC アドレスを含む XML ファイルの絶対パスを指定します。このファイルの作成については、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「サーバーの検出」の章を参照してください。
- *format* - 実行する検出の種類です。有効な値は *ip* および *file* です。
- *ip* - 検出するサーバーの管理ネットワークまたはプロビジョニングネットワークの IP アドレスを指定します。次のいずれかの方法で、*ip* の複数のインスタンスをコマンドで区切って指定できます。
 - *ip-address* - 1 つの IP アドレス
 - *ip-address-ip-address* - IP アドレスの範囲。例: **10.5.10.1-10.5.10.100**
 - *subnet/mask-length* - サブネットとそのマスクの長さ。例: **10.0.8/24** または **10.0.8.128/28**
- *group* - 検出したサーバーの追加先のサーバーグループ名です。サーバーグループが存在しない場合は、検出中に作成されます。
- *ipmi* - 検出プロセスの認証に、サーバーのネットワーク IP アドレスに基づく IPMI 資格を指定します。*ipmi* 値は IPMI ユーザー名/パスワードの組み合わせです。IPMI 資格が指定されておらず、Sun Fire V20z または Sun Fire V40z サーバーが出荷時のデフォルト状態の場合、サーバーの IPMI ユーザー/パスワードは検出プロセスによって **Null/admin** に設定されます。検出に使用されるデフォルトの IPMI 資格は、サーバーモデルによって異なります。

コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符 (?) を入力できます。コマンドを実行したときに、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。

- *snmp* - 検出プロセスの認証に、サーバーのネットワーク IP アドレスに基づく SNMP 資格を指定します。*snmp* の形式は、SNMP 資格の読み込みコミュニティ文字列です。デフォルトの SNMP 読み込みコミュニティ文字列は *public* です。
- *ssh* - 検出プロセスの認証に、サーバーのネットワーク IP アドレスに基づく SSH 資格を指定します。*ssh* の形式は、SSH 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: *ssh-username/ssh-password*。SSH 資格が指定されておらず、Sun Fire V20z または Sun Fire V40z サーバーが出荷時のデフォルト状態の場合、サーバーの SSH ユーザー/パスワードは検出プロセスによって *admin/admin* に設定されます。検出に使用されるデフォルトの SSH 資格は、サーバーモデルによって異なります。

コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符 (?) を入力できません。コマンドを実行したときに、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。

- *telnet* - 検出プロセスの認証に、サーバーのネットワーク IP アドレスに基づく *telnet* 資格を指定します。*telnet* 資格を使用するのは、ALOM ベースのシステムのみです。*telnet* の形式は、*telnet* 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: *telnet-username/telnet-password*。検出に使用されるデフォルトの *telnet* 資格は、サーバーモデルによって異なります。

コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符 (?) を入力できません。コマンドを実行したときに、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。

exit

N1-ok> シェルを終了します。**N1-ok>** シェルがデフォルトのシェルの場合は、N1 System Manager から完全にログアウトします。デフォルトのシェルでない場合は、管理サーバーの元のシェルに戻ります。

形式

- **N1-ok>** シェルを終了します。

```
exit
```

load

サーバーにソフトウェアをインストールします。

機能説明

load コマンドは、OS ディストリビューション (OS プロファイルを使用)、ファームウェアアップデート、OS アップデート (パッケージ、パッチ、および RPM)、またはアプリケーション (アプリケーションプロファイルを使用) をインストールします。*load* コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。group および server。

help load object と入力すると、詳細情報を得ることができます。

load group

OS ディストリビューション (OS プロファイルを使用)、OS アップデート、ファームウェアアップデート、またはアプリケーション (アプリケーションプロファイルを使用) などのソフトウェアをサーバーグループにインストールします。

機能説明

このリリースの N1 System Manager でプロビジョニングできるアプリケーションは、N1 Grid Engine (N1GE) だけです。

形式

- サーバーグループに Solaris OS プロファイルをインストールする場合

```
load group group osprofile osprofile ip ip networktype static
[excludeserver server[,server...]]
[feature feature agentssh agentssh [agentsnmp agentsnmp] [agentsnmpv3 agentsnmpv3]]
[unix-configuration-attributes]
```

- サーバーグループに Red Hat Linux または SUSE Linux OS プロファイルをインストールする場合

```
load group group osprofile osprofile bootip bootip networktype networktype
[ip ip] [excludeserver server[,server...]]
[feature feature agentssh agentssh [agentsnmp agentsnmp] [agentsnmpv3 agentsnmpv3]]
[unix-installation-attributes] [unix-configuration-attributes]
```

- サーバーグループに Windows OS プロファイルをインストールする場合

```
load group group osprofile osprofile networktype networktype [ip ip]
[excludeserver server[,server...]]
[windows-installation-attributes]
```

- サーバーグループをディスクレスクライアントとして構成する場合

```
load group group osprofile osprofile bootip bootip
[excludeserver server[,server...]]
[diskless-client-installation-attributes]
```

- サーバーグループに OS アップデートをインストールする場合

```
load group group update update[,update...]
```

- サーバーグループにファームウェアアップデートをインストールする場合

```
load group group firmware firmware [force]
```

- サーバーグループに N1GE アプリケーションをインストールする場合

```
load group group[,group...] applicationprofile applicationprofile
type n1ge hosttype [hosttype]
```

パラメータ

- *agentssh* - サーバーで、OS 監視を含む管理機能に使用する SSH 資格を指定します。SSH ユーザーはサーバーの root 権限を持っている必要があります。 *agentssh* の形式は、SSH 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: *ssh-username/ssh-password*。コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符 (?) を入力できます。コマンドを実行したときに、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。
- *agentsnmp* - サーバーで OS 監視に使用する SNMP 資格を指定します。 *agentsnmp* の形式は、読み込みコミュニティ文字列です。
- *agentsnmpv3* - サーバーで OS 監視に使用する SNMP Version 3 資格を指定します。 *agentsnmpv3* の形式は、ユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: *snmpv3-username/snmpv3-password*。コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符 (?) を入力できます。コマンドを実行したときに、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。
- *applicationprofile* - アプリケーションプロファイルの名前です。
- *bootip* - (Linux のみ) サーバーのインストールに使用する、サーバーのプロビジョニングネットワークインタフェース用の IP アドレス (プロビジョニング IP ともいう) です。IP アドレスの範囲、またはサブネットマスクを指定することもできます。IP アドレス範囲は次のように指定します。 *ip-address-ip-address* (例: *10.0.0.1-10.0.0.3*)。
- *excludeserver* - 1 つ以上のサーバーを、インストール対象から除外します。 *server* はサーバーの管理名です。
- *feature feature* - インストール時に、サーバーに管理機能を追加します。 *feature* 属性と同時に *agentssh* 属性を指定する必要があります。サーバーの *agentip* は、ロード処理時に自動的に *ip* 属性値に設定されます。有効な値には次のようなものがあります。
 - *basemanagement* - 基本管理機能を追加します。この機能は、OS アップデートの配備およびリモートコマンドの実行に必要です。
 - *osmonitor* - OS 監視機能を追加します。この機能には、基本管理機能も含まれます。OS 監視機能は、サーバーの OS リソースの健全性状態を監視するために必要です。詳細は、*show server* コマンドを参照してください。
- *firmware* - ファームウェアアップデートの名前です。デフォルトでは、ファームウェアアップデートのモデルおよびベンダーの設定は、インストール用に選択された各サーバーと一致する必要があります。設定が一致しない場合、アップデートは失敗します。
- *force* - サーバーの検証を行わずにファームウェアアップデートインストールを強制実行します。
- *group* - サーバークラスタの名前です。
- *hosttype* - インストールする N1 Grid Engine ホストの種類です。有効な値には次のようなものがあります。

- `compute` - 計算ホスト (実行ホストともいいます)
- `submit` - 発行ホスト (アクセスホストともいいます)
- `ip` - サーバーがインストールされたあとに、サーバーのプロビジョニングネットワークインタフェースに割り当てられる IP アドレスです。この IP アドレスは、Solaris オペレーティングシステムのインストール中に、自動的に `bootip` (プロビジョニング IP) として使用されます。この属性は、`networktype` が `static` の場合にのみ必須です。IP アドレスの範囲、またはサブネットマスクを指定することもできます。IP アドレス範囲は次のように指定します。 `ip-address -ip-address` (例: `10.0.0.1-10.0.0.3`)。
- `networktype` - サーバーのインストール後の、サーバーのプロビジョニングネットワークインタフェース用の IP アドレス割り当て方法を指定します。有効な値は、`static` または `dhcp` です。`networktype` を `static` に設定した場合は、必ず `ip` 属性を指定する必要があります。
- `osprofile` - OS のインストールに使用する OS プロファイルの名前です。
- `update` - OS アップデートの名前です。2 つ以上の OS アップデートを指定した場合は、アップデートは OS の種類が同じで、すべての依存関係の問題に対して適切な順序になっている必要があります。OS アップデートは、指定された順にインストールされます。

Unix インストールの属性

次の属性は、サーバーの起動とインストールに一時的に使用されます。N1 System Manager は、これらのすべての属性にデフォルト値を提供します。

- `bootgateway bootgateway` - (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するゲートウェイです。
- `bootnameserver bootnameserver` - (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するネームサーバーです。
- `bootnetmask bootnetmask` - (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するネットマスクです。
- `bootnetworkdevice bootnetworkdevice` - (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するサーバーのプロビジョニングネットワークインタフェースです。Solaris で有効な値は、`bge0` (デフォルト)、`bge1`、`bge2`、`bge3` です。Linux で有効な値は、`eth0` (デフォルト)、`eth1`、`eth2`、`eth3`、`eth4` です。Red Hat 4 OS を Sun Fire X2100 サーバーにインストールするときは、`bootnetworkdevice` の値を `eth1` に設定する必要があります。この場合は、デフォルト値を使用できません。
- `console console` - インストールの監視に使用できる、サーバーのシステムコンソールのデバイス名です。デフォルトは `ttys0` (Linux)、`ttya` (Solaris) です。
- `consolebaud consolebaud` - サーバーのシステムコントロールのボーレートです。デフォルトは `9600` です。
- `installprotocol installprotocol` - サーバーのインストールに使用するプロトコルです。通常は HTTP プロトコルが高速です。有効な値は `http` (デフォルト) および `nfs` です。

Unix の構成の属性

次の属性は、インストール中のサーバーのネットワーク情報の構成に使用されます。N1 System Manager は、これらのすべての属性にデフォルト値を提供します。

- `domainname domainname` - (Solaris のみ) インストールしたサーバーに割り当てられるドメインです。この属性が指定されない場合は、管理サーバーのドメインが使用されるか、`sun.com` になります。
- `gateway gateway` - インストールしたサーバーに割り当てられるゲートウェイです。
- `kernelparameter kernelparameter` - (Linux のみ) インストール中にカーネルに渡すパラメータです。
- `manualnetboot manualnetboot` - 手動のネットブートを有効にするかどうかを指定します。手動のネットブートを有効にすると、ネットブート処理を制御できます。ネットブート処理は、サーバーに OS をプロビジョニングするときに、ブートストラップ処理の一環として必要です。手動のネットブートは、OS ベースまたは手動で検出したサーバーに必要です。これらのシステムは、N1 System Manager で自動的にネットブートできないためです。有効な値は `true` および `false` (デフォルト) です。
- `nameserver nameserver` - インストールしたサーバーに割り当てられるネームサーバーです。
- `netmask netmask` - インストールしたサーバーに割り当てられるネットマスクです。
- `networkdevice networkdevice` - (Linux のみ) サーバーのインストール後のサーバーのプロビジョニングネットワークインタフェースです。デフォルト値は `eth0` です。Red Hat 4 OS を Sun Fire X2100 サーバーにインストールするときは、`networkdevice` の値を `eth1` に設定する必要があります。この場合は、デフォルト値を使用できません。

Windows インストールの属性

- `gateway gateway` - インストールしたサーバーに割り当てられるゲートウェイです。
- `manualnetboot manualnetboot` - 手動のネットブートを有効にするかどうかを指定します。手動のネットブートを有効にすると、ネットブート処理を制御できます。ネットブート処理は、サーバーに OS をプロビジョニングするときに、ブートストラップ処理の一環として必要です。手動のネットブートは、OS ベースまたは手動で検出したサーバーに必要です。これらのシステムは、N1 System Manager で自動的にネットブートできないためです。有効な値は `true` および `false` (デフォルト) です。
- `netmask netmask` - インストールしたサーバーに割り当てられるネットマスクです。
- `productkey productkey` - OS プロファイルで指定されているプロダクトキーの値の代わりにこの値を使用します。

ディスクレスクライアントのインストールの属性

- `bootgateway bootgateway` - (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するゲートウェイです。
- `boothostname boothostname` - (単一サーバーで Linux の場合のみ) サーバーのインストールに使用するホスト名です。
- `bootnameserver bootnameserver` - (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するネームサーバーです。

- `bootnetmask bootnetmask` - (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するネットマスクです。
- `bootnetworkdevice bootnetworkdevice` - サーバーのインストールに使用するサーバーのプロビジョニングネットワークインタフェースです。Solaris で有効な値は、`bge0` (デフォルト)、`bge1`、`bge2`、`bge3` です。Linux で有効な値は、`eth0` (デフォルト)、`eth1`、`eth2`、`eth3`、`eth4` です。Red Hat 4 OS を Sun Fire X2100 サーバーにインストールするときは、`bootnetworkdevice` の値を `eth1` に設定する必要があります。この場合は、デフォルト値を使用できません。
- `console console` - インストールの監視に使用できる、サーバーのシステムコンソールのデバイス名です。デフォルトは `ttys0` (Linux)、`ttya` (Solaris) です。
- `consolebaud consolebaud` - サーバーのシステムコントロールのボーレートです。デフォルトは `9600` です。
- `nfsroot nfsroot` - NFS のルートの場所です (例: `10.0.0.115:/my_roots/sol_a`)。コマンドで区切ったパスの一覧か、`10.1.10.1:/diskless/home/1-40` のようにパスの範囲を指定できます。パスの範囲を指定する場合は、`nfsroot` ディレクトリの名前が数値である必要があります。initrd ベースのディスクレスクライアントには、この属性は必要ありません。

load guidconfig

多数の Windows システムの GUID を設定できます。

形式

- 指定するサーバーの GUID を設定します。

```
load guidconfig file file
```

パラメータ

- `file` - サーバーの管理名とそれに対応する GUID の一覧を含むファイルの絶対パスを次の形式で指定します。 `server-management-name,GUID`

GUID の例: 5D607F648-4003-AFA8-69E019A4496F

load server

OS ディストリビューション (OS プロファイルを使用)、OS アップデート、ファームウェアアップデート、またはアプリケーション (アプリケーションプロファイルを使用) などのソフトウェアをサーバーにインストールします。

機能説明

このリリースの N1 System Manager でプロビジョニングできるアプリケーションは、N1 Grid Engine (N1GE) だけです。

形式

- 1つ以上のサーバーに Solaris OS プロファイルをインストールする場合

```
load server server[,server...] osprofile osprofile ip ip networktype static
[feature feature agentssh agentssh [agentsnmp agentsnmp] [agentsnmpv3 agentsnmpv3]]
[unix-installation-attributes] [unix-configuration-attributes]
```

- 1つ以上のサーバーに Red Hat Linux または SUSE Linux OS プロファイルをインストールする場合

```
load server server[,server...] osprofile osprofile bootip bootip
networktype networktype [ip ip]
[feature feature agentssh agentssh [agentsnmp agentsnmp] [agentsnmpv3 agentsnmpv3]]
[unix-installation-attributes] [unix-configuration-attributes]
```

- 1つ以上のサーバーに Windows OS プロファイルをインストールする場合

```
load server server[,server...] osprofile osprofile networktype networktype [ip ip]
[windows-installation-attributes]
```

- 1つ以上のサーバーをディスクレスクライアントとして構成する場合

```
load server server[,server...] osprofile osprofile bootip bootip
[diskless-client-installation-attributes]
```

- 1つ以上のサーバーに OS アップデートをインストールする場合

```
load server server[,server...] update update [update...]
```

- 1つ以上のサーバーにファームウェアアップデートをインストールする場合

```
load server server[,server...] firmware firmware [force]
```

- 1つ以上のサーバーに N1GE アプリケーションをインストールする場合

```
load server server[,server...] applicationprofile applicationprofile
type n1ge hosttype [hosttype]
```

パラメータ

- *agentssh* - サーバーで、OS 監視を含む管理機能に使用する SSH 資格を指定します。SSH ユーザーはサーバーの root 権限を持っている必要があります。 *agentssh* の形式は、SSH 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。例:

ssh-username/ssh-password。コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符 (?) を入力できます。コマンドを実行したときに、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。

- *agentsnmp* - サーバーで OS 監視に使用する SNMP 資格を指定します。 *agentsnmp* の形式は、読み込みコミュニティ文字列です。
- *agentsnmpv3* - サーバーで OS 監視に使用する SNMP Version 3 資格を指定します。 *agentsnmpv3* の形式は、ユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: *snmpv3-username /snmpv3-password*。コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符 (?) を入力できます。コマンドを実行したときに、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。
- *applicationprofile* - アプリケーションプロファイルの名前です。
- *bootip* - (Linux のみ) サーバーのインストールに使用する、サーバーのプロビジョニングネットワークインタフェース用の IP アドレス (プロビジョニング IP ともいう) です。IP アドレスは、単一で、または複数のサーバーをインストールする場合は範囲またはサブネットマスクで指定できます。IP アドレス範囲は次のように指定します。
ip-address -ip-address (例: **10.0.0.1-10.0.0.3**)。
- *feature feature* - インストール時に、サーバーに管理機能を追加します。 *feature* 属性と同時に *agentssh* 属性を指定する必要があります。サーバーの *agentip* は、ロード処理時に自動的に *ip* 属性値に設定されます。有効な値には次のようなものがあります。
 - *basemanagement* - 基本管理機能を追加します。この機能は、OS アップデートの配備およびリモートコマンドの実行に必要です。
 - *osmonitor* - OS 監視機能を追加します。この機能には、基本管理機能も含まれます。OS 監視機能は、サーバーの OS リソースの健全性状態を監視するために必要です。詳細は、*show server* コマンドを参照してください。
- *firmware* - ファームウェアアップデートの名前です。デフォルトでは、ファームウェアアップデートのモデルおよびベンダーの設定は、インストール用に選択された各サーバーと一致する必要があります。一致しない場合は、アップデートに失敗します。
- *force* - サーバーの検証を行わずにファームウェアアップデートインストールを強制実行します。
- *hosttype* - インストールする N1 Grid Engine ホストの種類です。有効な値には次のようなものがあります。
 - *compute* - 計算ホスト (実行ホストともいいます)
 - *master* - マスターホスト
 - *submit* - 発行ホスト (アクセスホストともいいます)
- *gateway gateway* - インストールしたサーバーに割り当てられるゲートウェイです。
- *ip* - サーバーがインストールされたあとに、サーバーのプロビジョニングネットワークインタフェースに割り当てられる IP アドレスです。この IP アドレスは、Solaris オペレーティングシステムのインストール中に、自動的に *bootip* (プロビジョニング IP) として使用されます。この属性は、*networktype* が *static* の場合のみ必須です。IP アドレスは、単一で、または複数のサーバーをインストールする場合は範囲またはサ

ブネットマスクで指定できます。IP アドレス範囲は次のように指定します。

ip-address- ip-address (例: 10.0.0.1-10.0.0.3)。

- *netmask netmask* - インストールしたサーバーに割り当てられるネットマスクです。
- *networktype* - サーバーのインストール後の、サーバーのプロビジョニングネットワークインタフェース用の IP アドレス割り当て方法を指定します。有効な値は、*static* または *dhcp* です。*networktype* を *static* に設定した場合は、必ず *ip* 属性を指定する必要があります。
- *osprofile* - OS のインストールに使用する OS プロファイルの名前です。
- *server* - サーバーの管理名です。
- *update* - OS アップデートの名前です。2 つ以上の OS アップデートを指定した場合は、アップデートは OS の種類が同じで、すべての依存関係の問題に対して適切な順序になっている必要があります。OS アップデートは、指定された順にインストールされます。

Unix インストールの属性

次の属性は、1 つ以上のサーバーのインストールに一時的に使用されます。一部の属性は、単一サーバーのインストールでのみ指定できます。N1 System Manager は、単一サーバー固有ではないすべての属性にデフォルト値を提供します。

- *bootgateway bootgateway* - (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するゲートウェイです。
- *boothostname boothostname* - (単一サーバーで Linux の場合のみ) サーバーのインストールに使用するホスト名です。
- *bootnameserver bootnameserver* - (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するネームサーバーです。
- *bootnetmask bootnetmask* - (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するネットマスクです。
- *bootnetworkdevice bootnetworkdevice* - サーバーのインストールに使用するサーバーのプロビジョニングネットワークインタフェースです。Solaris で有効な値は、*bge0* (デフォルト)、*bge1*、*bge2*、*bge3* です。Linux で有効な値は、*eth0* (デフォルト)、*eth1*、*eth2*、*eth3*、*eth4* です。Red Hat 4 OS を Sun Fire X2100 サーバーにインストールするときは、*bootnetworkdevice* の値を *eth1* に設定する必要があります。この場合は、デフォルト値を使用できません。
- *bootpath bootpath* - (単一サーバー、Solaris x86 のみ) サーバーのインストールに使用するサーバーのプロビジョニング起動デバイスです。指定された場合は、*bootnetworkdevice* の値よりも優先されます。有効な値には次のようなものがあります。
 - */pci@0,0/pci1022,7450@a/pci17c2,10@2* - Sun Fire V20z、*bge0* (デフォルト)
 - */pci@0,0/pci1022,7450@a/pci17c2,10@3* - Sun Fire V20z、*bge1*
 - */pci@0,0/pci1022,7450@a/pci17c2,20@2* - Sun Fire V40z、*bge0* (デフォルト)
 - */pci@0,0/pci1022,7450@a/pci17c2,20@3* - Sun Fire V40z、*bge1*

- `/pci@0,0/pci1022,7450@1/pci8086,1011@1` – Sun Fire X4000 シリーズ、`bge0` (デフォルト)
- `/pci@0,0/pci1022,7450@1/pci8086,1011@1,1` – Sun Fire X4000 シリーズ、`bge1`
- `/pci@0,0/pci1022,7450@1/pci8086,1011@2` – Sun Fire X4000 シリーズ、`bge2`
- `/pci@0,0/pci1022,7450@1/pci8086,1011@2,1` – Sun Fire X4000 シリーズ、`bge3`
- `/pci@0,0/pci108e,5348@a` – Sun Fire X2100、`bge0` (デフォルト)
- `console console` – インストールの監視に使用できる、サーバーのシステムコンソールのデバイス名です。デフォルトは `ttys0` (Linux)、`ttys0` (Solaris) です。
- `consolebaud consolebaud` – サーバーのシステムコントロールのボーレートです。デフォルトは `9600` です。
- `installprotocol installprotocol` – サーバーのインストールに使用するプロトコルです。通常は HTTP プロトコルが高速です。有効な値は `http` (デフォルト) および `nfs` です。
- `kernelparameter kernelparameter` – (Linux のみ) インストール中にカーネルに渡すパラメータです。

Unix の構成の属性

次の属性は、インストール中のサーバーのネットワーク情報の構成に使用されます。一部の属性は、単一サーバーのインストールでのみ指定できます。N1 System Manager は、単一サーバー固有ではないすべての属性にデフォルト値を提供します。

- `domainname domainname` – (Solaris のみ) インストールしたサーバーに割り当てられるドメインです。この属性が指定されない場合は、管理サーバーのドメインが使用されるか、`sun.com` になります。
- `gateway gateway` – インストールしたサーバーに割り当てられるゲートウェイです。
- `hostname hostname` – (単一サーバーのみ) インストールしたサーバーに割り当てられるホスト名です。
- `manualnetboot manualnetboot` – 手動のネットブートを有効にするかどうかを指定します。手動のネットブートを有効にすると、ネットブート処理を制御できます。ネットブート処理は、サーバーに OS をプロビジョニングするときに、ブートストラップ処理の一環として必要です。手動のネットブートは、OS ベースまたは手動で検出したサーバーに必要です。これらのシステムは、N1 System Manager で自動的にネットブートできないためです。有効な値は `true` および `false` (デフォルト) です。
- `nameserver nameserver` – インストールしたサーバーに割り当てられるネームサーバーです。
- `netmask netmask` – インストールしたサーバーに割り当てられるネットマスクです。
- `networkdevice networkdevice` – (Linux のみ) サーバーのインストール後のサーバーのプロビジョニングネットワークインタフェースです。デフォルトは `eth0` です。Red Hat 4 OS を Sun Fire X2100 サーバーにインストールするときは、`networkdevice` の値を `eth1` に設定する必要があります。この場合は、デフォルト値を使用できません。

Windows インストールの属性

- `gateway gateway` - インストールしたサーバーに割り当てられるゲートウェイです。
- `manualnetboot manualnetboot` - 手動のネットブートを有効にするかどうかを指定します。手動のネットブートを有効にすると、ネットブート処理を制御できます。ネットブート処理は、サーバーにOSをプロビジョニングするときに、ブートストラップ処理の一環として必要です。手動のネットブートは、OS ベースまたは手動で検出したサーバーに必要です。これらのシステムは、N1 System Manager で自動的にネットブートできないためです。有効な値は `true` および `false` (デフォルト) です。
- `netmask netmask` - インストールしたサーバーに割り当てられるネットマスクです。
- `productkey productkey` - OS プロファイルで指定されているプロダクトキーの値の代わりにこの値を使用します。

ディスクレスクライアントのインストールの属性

- `bootgateway bootgateway` - (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するゲートウェイです。
- `boothostname boothostname` - (単一サーバーで Linux の場合のみ) サーバーのインストールに使用するホスト名です。
- `bootnameserver bootnameserver` - (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するネームサーバーです。
- `bootnetmask bootnetmask` - (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するネットマスクです。
- `bootnetworkdevice bootnetworkdevice` - サーバーのインストールに使用するサーバーのプロビジョニングネットワークインタフェースです。Solaris で有効な値は、`bge0` (デフォルト)、`bge1`、`bge2`、`bge3` です。Linux で有効な値は、`eth0` (デフォルト)、`eth1`、`eth2`、`eth3`、`eth4` です。Red Hat 4 OS を Sun Fire X2100 サーバーにインストールするときは、`bootnetworkdevice` の値を `eth1` に設定する必要があります。この場合は、デフォルト値を使用できません。
- `console console` - インストールの監視に使用できる、サーバーのシステムコンソールのデバイス名です。デフォルトは `ttys0` (Linux)、`ttya` (Solaris) です。
- `consolebaud consolebaud` - サーバーのシステムコントロールのボーレートです。デフォルトは `9600` です。
- `nfsroot nfsroot` - NFS のルートの場所です。例: `10.0.0.115:/my_roots/sol_a`。コマンドで区切ったパスの一覧か、`10.1.10.1:/diskless/home/1-40` のようにパスの範囲を指定できます。パスの範囲を指定する場合は、`nfsroot` ディレクトリの名前が数値である必要があります。initrd ベースのディスクレスクライアントには、この属性は必要ありません。

remove

オブジェクトまたはグループからメンバーを削除します。

機能説明

remove コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。 `group`、`osprofile`、`role`、`server`、`user`。

`help remove object` コマンドで詳細情報を得ることができます。

remove group

サーバーグループからサーバーを削除します。

形式

- サーバーグループから1つ以上のサーバーを削除する場合

```
remove group group server server[,server...]
```

- サーバーグループからすべてのサーバーを削除する場合

```
remove group group server all
```

パラメータ

- `all` - サーバーグループからすべてのサーバーを削除します。
- `group` - サーバーグループの名前です。
- `server` - 削除するサーバーの管理名です。

remove osprofile

OS プロファイルから、ディストリビューショングループ、ディスクパーティション、OS アップデート、カスタムインストールスクリプトのいずれかを削除します。

機能説明

このコマンドを使用中の (サーバーにアクティブに配備されている) プロファイルに対して実行することはできません。OS プロファイルが使用中かどうかを確認するには、`show osprofile` コマンドを使用します。

形式

- OS プロファイルからディストリビューショングループを削除する場合

```
remove osprofile osprofile distributiongroup distributiongroup
```

- OS プロファイルからディスクパーティション情報を削除する場合


```
remove osprofile osprofile partition partition
```

- OS プロファイルから OS アップデートを削除する場合

```
remove osprofile osprofile update update
```

- OS プロファイルからカスタムインストールスクリプトを削除する場合

```
remove osprofile osprofile script script
```

パラメータ

- *distributiongroup* - 削除するディストリビューショングループ (パッケージのグループ) の名前です。
- *osprofile* - OS プロファイルの名前です。
- *partition* - 削除するディスクパーティションのマウントポイント名です。
- *script* - 削除するカスタムインストールスクリプトの名前です。
- *update* - 削除する OS アップデートの名前です。

remove role

ロールから権限を削除します。

形式

- ロールから 1 つ以上の権限を削除する場合

```
remove role role privilege privilege[,privilege...]
```

- ロールからすべての権限を削除する場合

```
remove role role privilege all
```

パラメータ

- *all* - ロールからすべての権限を削除します。
- *role* - ロールの名前です。次のシステムデフォルトのロールの権限は削除できません。Admin、SecurityAdmin、ReadOnly。これらのロールは定義済みであり、変更できません。
- *privilege* - ロールから削除する権限の名前です。

remove server

サーバーから OS 監視機能または基本管理機能を削除します。

機能説明

2つのレベルでOS監視機能を削除できます。uninstall キーワードを指定しなかった場合、OS監視機能はサーバーにインストールされたままになります。ただし、機能自体は無効になり、N1 System Manager でサーバーのOSを監視できなくなります。uninstall キーワードを指定した場合、OS監視機能はサーバーからアンインストールされ、OS監視機能は無効になります。

基本管理機能を削除すると、機能はサーバーからアンインストールされ、無効になります。基本管理機能を削除するには、先にOS監視機能をサーバーからアンインストールする必要があります。

機能を削除しても、add server コマンドを使用すればあとでいつでも機能を追加できます。show server の出力の「基本管理サポートの有無」フィールドと「OS監視サポートの有無」フィールドは、サーバーの機能の現在の状態を示します。

形式

- OS監視機能をサーバーから削除する場合

```
remove server server feature osmonitor [uninstall]
```

- 基本管理機能をサーバーから削除する場合

```
remove server server feature basemanagement
```

パラメータ

- basemanagement -サーバーから基本管理機能をアンインストールします。基本管理機能を削除するには、先にOS監視機能をサーバーからアンインストールする必要があります。
- osmonitor -サーバーからOS監視機能のサポートを削除します。
- *server* -サーバーの管理名です。
- uninstall -サーバーからOS監視機能をアンインストールします。

remove user

ユーザーからロールを削除します。

形式

- ユーザーから1つ以上のロールを削除する場合

```
remove user user role role [,role...]
```

- ユーザーからすべてのロールを削除する場合

```
remove user user role all
```

パラメータ

- *all* - 指定したユーザーからすべてのロールを削除します。
- *role* - ユーザーから削除するロールの名前です。 `show user user` コマンドで、ユーザーに割り当てられているすべてのロールの一覧を表示できます。
- *user* - ユーザーの名前です。

reset

サーバーを再起動します。

機能説明

`reset` コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。 `group` および `server`。

`help reset object` コマンドで詳細情報を得ることができます

reset group

サーバーグループを再起動(電源オフ後に電源オン)します。サーバーの構成によっては、オペレーティングシステムの起動が行われます。

形式

- サーバーグループを再起動します

```
reset group group [force] [netboot]
```

パラメータ

- *force* - 通常の停止手続きを行わずに強制的に電源をオフにします。指定がない場合、デフォルトで通常の停止が実行されます。OSがインストールされていない、または基本管理機能が追加されていないサーバーの電源をオフにするときは、このオプションを使用する必要があります。
- *group* - サーバーグループの名前です。
- *netboot* - グループ内の各サーバーに対して、それらのデフォルトのネットワーク起動インタフェースからの起動を強制します。このオプションを使用すると、N1 System Manager 環境の外部で構成する必要があるインストールサーバー設定を使用して、ネットワークを経由してサーバーをインストールすることができます。

reset server

サーバーを再起動(電源オフ後に電源オン)します。サーバーの構成によっては、オペレーティングシステムの起動が行われます。

形式

- 1つ以上のサーバーを再起動する場合

```
reset server server[,server...] [force] [netboot]
```

- すべてのサーバーを再起動する場合

```
reset server all [force] [netboot]
```

パラメータ

- *all* - すべてのサーバーを再起動します。
- *force* - 通常の停止手続きを行わずに強制的に電源をオフにします。指定がない場合、デフォルトで通常の停止が実行されます。OSがインストールされていない、または基本管理機能が追加されていないサーバーの電源をオフにするときは、このオプションを使用する必要があります。
- *netboot* - 各サーバーに対して、それらのデフォルトのネットワーク起動インタフェースからの起動を強制します。このオプションを使用すると、N1 System Manager 環境の外部で構成する必要があるインストールサーバー設定を使用して、ネットワークを経由してサーバーをインストールすることができます。
- *server* - サーバーの管理名です。

set

オブジェクトまたはグループで属性を変更します。

機能説明

set コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。 *applicationprofile*、*dhcpconfig*、*firmware*、*group*、*notification*、*os*、*osprofile*、*role*、*server*、*session*、*user*、*module*。

`help set object` コマンドで詳細情報を得ることができます。

set applicationprofile

アプリケーションプロファイルの構成を変更します。

機能説明

このリリースの N1 System Manager でプロビジョニングできるアプリケーションは、N1 Grid Engine (N1GE) だけです。

N1GE のアプリケーションプロファイルが現在インストールされており、N1GE のマスターホストが、N1 System Manager で管理しているサーバーの一つである場合は、`loadcritical`、`loadwarning`、`maxpertime`、`memcritical`、および `memwarning` の各属性だけを変更できます。N1GE のマスターホストを N1 System Manager で管理していない場合は、`proxyhost` 属性だけを変更できます。

形式

- N1GE のアプリケーションプロファイルの構成を変更します。

```
set applicationprofile applicationprofile type n1ge N1GE-attributes
```

パラメータ

- `applicationprofile` - アプリケーションプロファイルの名前です。

N1GE の属性

- `adminhomedir` `adminhomedir` - N1GE 管理ユーザーのホームディレクトリです。デフォルト値は `/gridware/sge` です。
- `adminuid` `adminuid` - N1GE の管理ユーザーの UID です。デフォルト値は `218` です。
- `adminusername` `adminusername` - N1GE の管理ユーザーのユーザー名です。デフォルト値は `sgeadmin` です。
- `execdport` `execdport` - N1GE の `execd` デーモンに使用する TCP ポートです。デフォルト値は `837` です。
- `instversion` `instversion` - 計算ホストと送信ホストで配備される N1GE のバージョンです。デフォルト値は存在しません。
- `lnxnfsmtopts` `lnxnfsmtopts` - Linux の計算ホストまたは発行ホストに “common” ディレクトリをマウントするときに使用するオプションです。このフィールドの値は、`nfsservername:nfsmountpoint nfsmountpoint nfs lnxnfsmtopts 0 0` として、各ホストの Linux の `/etc/fstab` ファイルに挿入されます。デフォルト値は `intr,softload` です。この値に空白を含めることはできません。
- `loadcritical` `loadcritical` - このパラメータを使用して、負荷クリティカルのしきい値を指定します。このしきい値を超えると、負荷クリティカルの警告がモニターに表示されます。負荷警告パラメータと同様に、このパラメータは、CPU 数に基づいたシステム負荷で設定します。デフォルト値は `3.00` です。
- `loadwarning` `loadwarning` - このパラメータを使用して、負荷警告のしきい値を指定します。このしきい値を超えると、負荷警告がモニターに表示されます。値は、OS で報告されたシステム負荷を CPU 数で割ったものです。デフォルト値は `1.00` です。

- `masterport masterport` - N1GE の `qmaster` デーモンに使用する TCP ポートです。デフォルト値は 836 です。
- `maxpendtime maxpendtime` - このパラメータを使用して、ジョブ保留警告がモニターに表示されるまでの時間を指定します。値は時間単位で設定します。デフォルト値は 24 です。
- `memcritical memcritical` - このパラメータを使用して、メモリークリティカルのしきい値を設定します。値がこのしきい値を下回ると、メモリークリティカルの警告がモニターに表示されます。M バイト単位の仮想メモリーの空き容量を値として設定します。デフォルト値は 10 です。
- `memwarning memwarning` - このパラメータを使用して、メモリー警告のしきい値を設定します。値がこのしきい値を下回ると、メモリー警告がモニターに表示されます。M バイト単位の仮想メモリーの空き容量をパラメータの値として設定します。デフォルト値は 100 です。
- `nfsmountpoint nfsmountpoint` - NFS サーバーから N1GE の “common” ディレクトリ用にマウントするディレクトリです。この値は、N1GE を使用してマスターホストを配備するときに自動的に `sgeroot/sgecell/common` に設定されます。マスターホストを配備したら、この値は編集できなくなり、計算ホストと発行ホストのその後の配備に有効です。この設定を再度設定するには、マスターホストをアンインストールする必要があります。デフォルト値は `/gridware/sge/default/common` です。
- `nfsservername nfsservername` - すべての計算ホストと発行ホストが N1GE の “common” ディレクトリをマウントする NFS サーバーの名前です。このパラメータは、N1GE を使用してマスターホストを配備するときに自動的にマスターホストに設定されます。マスターホストを配備したら、この値は編集できなくなり、計算ホストと発行ホストのその後の配備に有効です。この設定を再度設定するには、マスターホストをアンインストールする必要があります。デフォルト値は存在しません。
- `proxyhost proxyhost` - 監視コマンドを実行するホストを設定します。マスターホストが以前に N1GE を使用して配備された場合は、プロキシホストがこのホストに設定され、マスターをアンインストールするまで変更できません。選択するホストは N1GE の管理ホストである必要があります。管理ホストではなかった場合、ほかのホストのインストールとアンインストール、および監視に失敗する可能性があります。デフォルト値は存在しません。
- `sgecell sgecell` - 配備に使用する N1GE のセル名です。デフォルト値は `default` です。
- `sgeroot sgeroot` - N1GE のファイルをインストールするルートディレクトリです。ファイルはすべてのホストでこのディレクトリにインストールされます。デフォルト値は `/gridware/sge` です。
- `solnfsmtopts solnfsmtopts` - Solaris の計算ホストまたは発行ホストに “common” ディレクトリをマウントするときに使用するオプションです。このフィールドの値は、`nfsservername:nfsmountpoint nfsmountpoint nfs -yes solnfsmtopts` として、各ホストの Solaris の `/etc/vfstab` ファイルに挿入されます。デフォルト値は存在しません。この値に空白を含めることはできません。

set dhcpconfig

DHCP 構成の設定を変更します。

形式

- DHCP 構成の設定を変更します。

```
set dhcpconfig dhcpconfig defaultgw defaultgw dns1 dns1 dns2 dns2 dns3 dns3
domain domain domain2 domain2 highip highip lowip lowip netmask netmask
network network
```

パラメータ

- *defaultgw* - デフォルトのゲートウェイの IP アドレスを指定します。
- *dhcpconfig* - DHCP 構成の名前を変更します。
- *dns1* - 最初の DNS サーバーの IP アドレスを指定します。
- *dns2* - 2 番目の DNS サーバーの IP アドレスを指定します。
- *dns3* - 3 番目の DNS サーバーの IP アドレスを指定します。
- *domain* - 最初のドメイン名を指定します。
- *domain2* - 2 番目のドメイン名を指定します。
- *highip* - DHCP 構成内で最高の IP 値の IP アドレスを指定します。
- *lowip* - DHCP 構成内で最低の IP 値の IP アドレスを指定します。
- *netmask* - DHCP 構成のネットマスクを指定します。
- *network* - DHCP 構成の基本ネットワークの IP アドレスを指定します。

set firmware

ファームウェアアップデートの属性を変更します。

形式

- さまざまなファームウェアアップデートの属性を変更します。

```
set firmware firmware [description description] [model model[,model]]
[name name] [type type] [vendor vendor] [version version]
```

パラメータ

- *description* - ファームウェアアップデートの説明です。
- *firmware* - ファームウェアアップデートの名前です。
- *model* - ファームウェアアップデート用の有効なハードウェアシステムのモデルの名前です。有効な値には次のようなものがあります。

- NETRA-240 – Netra 240
- NETRA-440 – Netra 440
- SF-T1000 – Sun Fire T1000
- SF-T2000 – Sun Fire T2000
- SF-V210 – Sun Fire V210
- SF-V240 – Sun Fire V240
- SF-V250 – Sun Fire V250
- SF-V440 – Sun Fire V440
- V20z – Sun Fire V20z
- V40z – Sun Fire V40z
- X4100 – Sun Fire X4100
- X4200 – Sun Fire X4200
- *name* – ファームウェアアップデートの新しい名前です。
- *type* – ファームウェアアップデートの種類を指定します。この属性は、Sun Fire V20z および Sun Fire V40z システムのファームウェアアップデートの場合のみ必要です。有効な値には次のようなものがあります。
 - BIOS – サーバプラットフォームの BIOS
 - PIC – サービスプロセッサのオペレータパネル
 - SP – サービスプロセッサ
- *vendor* – ファームウェアアップデートベンダーの名前です。有効な値は、Sun です。
- *version* – ファームウェアアップデートのバージョン番号です。

set group

サーバグループの名前を変更するか、サーバグループ上のロケータランプまたは監視状態を変更します。

形式

- サーバグループの名前を変更する場合


```
set group group name name
```
- サーバグループの最新の設定および状態で N1 System Manager を更新する場合


```
set group group refresh
```
- サーバグループの監視を有効または無効にする場合


```
set group group monitored monitored-state
```
- サーバグループ上のロケータランプを点灯または消灯する場合


```
set group group locator locator-state
```
- サーバのグループ上で、1つ以上の OS 監視属性のしきい値を設定する場合


```
set group group threshold threshold
[criticallow value] [criticalhigh value] [warninglow value] [warninghigh value]
```

- サーバークラスタ上で、`fsusage.kbpacefree` ファイルシステム監視属性のしきい値を設定する場合

```
set group group [filesystem filesystem] threshold fsusage.kbpacefree
[criticallow value] [criticalhigh value] [warninglow value] [warninghigh value]
```

- サーバークラスタ上で、`fsusage.pctused` ファイルシステム監視属性のしきい値を設定する場合

```
set group group [filesystem filesystem] threshold fsusage.pctused
[criticallow value] [criticalhigh value] [warninglow value] [warninghigh value]
```

パラメータ

- `filesystem` - 1つ以上のしきい値を設定するファイルシステムを選択します。ファイルシステムでは、`fsusage.pctused` および `fsusage.kbpacefree` 監視属性のしきい値だけを設定できます。ファイルシステムを指定しなかった場合は、グループ内のすべてのサーバークラスタ上のすべてのファイルシステムにしきい値が設定されます。値の例として、`/`や`/usr`があります。
- `group` - サーバークラスタの名前です。
- `locator-state` - サーバークラスタのロケータランプを点灯または消灯します。有効な値は `true` (点灯) および `false` (消灯) です。
- `monitored-state` - サーバークラスタの監視を有効または無効にします。有効な値は、`true` (有効) および `false` (無効) です。
- `name` - サーバークラスタの新しい名前です。
- `refresh` - サーバークラスタの最新の設定および状態で管理サーバークラスタを更新します。更新される状態には、監視情報や現在インストールされているソフトウェア、その他詳細情報が含まれます。
- `threshold` - 1つ以上のしきい値を設定する OS またはファイルシステムの監視属性を選択します。有効な値には次のようなものがあります。
 - `cpustats.loadavg1min` - システムロードは、1分を超えるキュープロセスの平均数で示されます。
 - `cpustats.loadavg5min` - システムロードは、5分を超えるキュープロセスの平均数で示されます。
 - `cpustats.loadavg15min` - システムロードは、15分を超えるキュープロセスの平均数で示されます。
 - `cpustats.pctusage` - 全体的な CPU 使用率 (%) です。
 - `cpustats.pctidle` - 全体的な CPU アイドル率 (%) です。
 - `fsusage.kbpacefree` - 空きファイルシステム領域 (K バイト) です。 `filesystem` 属性と同時に使用して、特定のファイルシステムのしきい値を設定できます。

- `fsusage.pctused` - ファイルシステム領域の使用率 (%) です。 `filesystem` 属性と同時に使用して、特定のファイルシステムのしきい値を設定できます。
- `memusage.pctmemused` - メモリーの使用率 (%) です。
- `memusage.pctmemfree` - 空きメモリー率 (%) です。
- `memusage.mbmempused` - 使用メモリー (M バイト) です。
- `memusage.mbmempfree` - 空きメモリー (M バイト) です。
- `memusage.pctswapped` - スワップ領域の使用率 (%) です。
- `memusage.mbswapfree` - 空きスワップ領域 (M バイト) です。
- `memusage.kbswapused` - 使用スワップ領域 (K バイト) です。
- *value* - サーバーのグループ上で OS またはファイルシステムの監視属性のしきい値を設定します。 `criticallow`、 `criticalhigh`、 `warninglow`、 `warninghigh` しきい値の有効な値は属性によって異なります。パーセンテージで示される属性の有効な値の範囲は、0 から 100 です。 `none` 値は、そのしきい値の属性の監視を無効にします。

set notification

通知規則の名前、説明、または通知先を変更します。

形式

- 通知グループの名前、説明、または通知先を変更します。

```
set notification notification [name name] [description description]
[destination destination]
```

パラメータ

- *description* - 通知規則の新しい説明です。
- *destination* - 通知の新しい送信先です。送信先は、通知規則を作成したときに設定した、規則の *type* に対応している必要があります。有効な値には次のようなものがあります。
 - *email-addresses* - 電子メールアドレス (複数の場合はコンマで区切る) です。
 - *script* - 通知の管理に使用するカスタムスクリプトの絶対パスです。
 - *snmp-host[:port]* - SNMP ホストです。 *snmp-host* は有効な SNMP ホスト名、 *port* はそのホスト上の有効なポートです。
- *name* - 通知規則の新しい名前です。
- *notification* - 通知規則の名前です。

set os

OS ディストリビューションの名前を変更します。

形式

- OS ディストリビューションの名前を変更します。

```
set os os name name
```

パラメータ

- name* - OS ディストリビューションの新しい名前です。
- os* - OS ディストリビューションの名前です。

set osprofile

OS プロファイルの構成を変更します。

形式

- Solaris OS プロファイルの構成を変更する場合

```
set osprofile osprofile [solaris-profile-attributes]
```

- Red Hat Linux OS プロファイルの構成を変更する場合

```
set osprofile osprofile [redhat-profile-attributes]
```

- SUSE Linux OS プロファイルの構成を変更する場合

```
set osprofile osprofile [SUSE-profile-attributes]
```

- Windows OS プロファイルの構成を変更する場合

```
set osprofile osprofile [Windows-profile-attributes]
```

- ディスクレスクライアントの OS プロファイルの構成を変更する場合

```
set osprofile osprofile [Diskless-client-profile-attributes]
```

パラメータ

- osprofile* - OS プロファイルの名前です。

Solaris のプロファイルの属性

- description* *description* - OS プロファイルの説明を指定します。

- `flar flar` - フラッシュアーカイブファイルの名前を指定します。絶対パスの形式で指定する必要があります。
- `language language` - インストール時のデフォルトの言語を指定します。デフォルト値は `en_us` です。Solaris プロファイルの場合、有効な値は `C`、`en_US.ISO8859-15`、`en_US.ISO8859-1`、`en_US` です。
- `ldap ldap` - サーバーに LDAP を設定します。有効な値は `true` および `false` です。
- `ldapservers ldapserver` - LDAP サーバー名を指定します。
- `ldapbasenames ldapbasename` - LDAP サーバーのベース名を指定します。
- `name name` - OS プロファイルの名前を変更します。
- `nis nis` - インストールされているサーバーの NIS を有効にします。有効な値は、`enabled`、`disabled` です。
- `nisdomain nisdomain` - インストールされているサーバーの NIS ドメインを指定します。
- `nisservers nisservers` - インストールされているサーバー用の NIS サーバーを指定するか、インストールに使用可能な NIS サーバーを自動的に検索する `broadcast` を設定します。
- `rootpassword rootpassword` - インストールされているサーバーの `root` パスワードを変更します。コマンド行でパスワードを表示しないようには、疑問符 (?) を入力できます。コマンドを実行したときに、パスワードの入力を求められます。
- `timezone timezone` - インストール場所のタイムゾーンを指定します。デフォルト値は `gmt` です。Solaris プロファイルの場合、有効な値は、Solaris システム上の `/usr/share/lib/zoneinfo` ディレクトリにあるディレクトリおよびファイルに含まれています。timezone 値は、`/usr/share/lib/zoneinfo` ディレクトリへの相対パス名です。たとえば、米国の山岳部標準時の timezone 値は `US/Mountain` です。日本の timezone 値は `Japan` です。

Red Hat Linux のプロファイルの属性

- `clearmbr clearmbr` - サーバー上のマスターブートレコードをクリアします。有効な値は `true` および `false` です。
- `description description` - OS プロファイルの説明を指定します。
- `existingpartition existingpartition` - インストール中にサーバーの既存のパーティションを行う処理です。有効な値には次のようなものがあります。
 - `all` - デフォルト値です。すべての既存パーティションを削除します。
 - `linux` - すべての Linux パーティションを削除します。
 - `preserve` - 既存のすべてのパーティションを保持します。
- `initdisklabel initdisklabel` - ディスクラベルを初期化します。有効にした場合、ジオメトリおよびパーティション情報を含むディスクの最初のセクタはインストール中に初期化されます。有効な値は `true` および `false` です。

- `language language` - インストール時のデフォルトの言語を指定します。デフォルト値は `en_us` です。Red Hat プロファイルの場合、有効な値は `cs_CZ`、`da_DK`、`de_DE`、`en_US`、`es_ES`、`fr_FR`、`is_IS`、`it_IT`、`ja_JP.eucJP`、`ko_KR.eucKR`、`nL_NL`、`no_NO`、`pt_PT`、`ru_RU.k0I8r`、`sl_SI`、`sv_SE`、`uk_UA`、`zh_CN.GB2312`、`zh_TW.Big5` です。
- `ldap ldap` - サーバーに LDAP を設定します。有効な値は `true` および `false` です。
- `ldaps server ldaps server` - LDAP サーバー名を指定します。
- `ldapbase name ldapbase name` - LDAP サーバーのベース名を指定します。
- `md5 md5` - MD5 チェックサムを有効にします。有効な場合は、インストール中に、ファイルおよびメッセージの整合性が検査されます。有効な値は `true` および `false` です。
- `name name` - OS プロファイルの名前を変更します。
- `nis nis` - インストールされているサーバーの NIS を有効にします。有効な値は、`enabled`、`disabled` です。
- `nisdomain nisdomain` - インストールされているサーバーの NIS ドメインを指定します。
- `niss server niss server` - インストールされているサーバー用の NIS サーバーを指定するか、インストールに使用可能な NIS サーバーを自動的に検索する `broadcast` を設定します。
- `rebootafterinstall rebootafterinstall` - インストール後にシステムを再起動します。有効な値は `true` および `false` です。
- `rootpassword rootpassword` - インストールされているサーバーの `root` パスワードを変更します。コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符 (?) を入力できます。コマンドを実行したときに、パスワードの入力を求められます。
- `shadowpassword shadowpassword` - シャドウパスワードを有効にします。有効な値は `true` および `false` です。
- `timezone timezone` - インストール場所のタイムゾーンを指定します。デフォルト値は `gmt` です。Red Hat プロファイルの場合、有効な値は `timeconfig` コマンドで示されるタイムゾーンのいずれかです。

SUSE Linux のプロファイルの属性

- `description description` - OS プロファイルの説明を指定します。
- `ftpproxy ftp proxy` - インストールされているサーバー用の FTP プロキシサーバーを指定します。`proxy` 属性は、認識可能な形式である必要があります。HTTP プロキシサーバーの IP アドレスまたはホスト名を指定することができます。この場合ポート番号を含める必要があります。ホスト名を指定する場合は、ネームサーバーが適切に設定されている必要があります。例: `http://129.101.1.240:3128` または `http://proxy.provider.com:3128`。
- `http proxy http proxy` - インストールされているサーバー用の HTTP プロキシサーバーを指定します。この値が認識されるためには、`proxy` 属性が有効になっている必要があります。HTTP プロキシサーバーの IP アドレスまたはホスト名を指定することができます。この場合ポート番号を含める必要があります。ホスト名を指定する場合は、

ネームサーバーが適切に設定されている必要があります。例:

http://129.101.1.240:3128 または http://proxy.provider.com:3128。

- `language language` - インストール時のデフォルトの言語を指定します。デフォルト値は `en_us` です。SUSE プロファイルの場合、有効な値は `cs_CZ`、`da_DK`、`de_DE`、`en_US`、`es_ES`、`fr_FR`、`is_IS`、`it_IT`、`ja_JP.eucJP`、`ko_KR.eucKR`、`nl_NL`、`no_NO`、`pt_PT`、`ru_RU.kOI8r`、`sl_SI`、`sv_SE`、`uk_UA`、`zh_CN.GB2312`、および `zh_TW.Big5` です。
- `ldap ldap` - サーバーに LDAP を設定します。有効な値は `true` および `false` です。
- `ldaps server ldaps server` - LDAP サーバー名を指定します。
- `ldapbase name ldapbase name` - LDAP サーバーのベース名を指定します。
- `name name` - OS プロファイルの名前を変更します。
- `nis nis` - インストールされているサーバーの NIS を有効にします。有効な値は、`enabled`、`disabled` です。
- `nisdomain nisdomain` - インストールされているサーバーの NIS ドメインを指定します。
- `niss server niss server` - インストールされているサーバー用の NIS サーバーを指定するか、インストールに使用可能な NIS サーバーを自動的に検索する `broadcast` を設定します。
- `proxy proxy` - インストールされているサーバー上でプロキシサーバーを有効または無効にします。有効な値は、`enabled` (デフォルト)、`disabled` です。プロキシサーバーを指定するには、`ftpproxy` および `httpproxy` 属性を使用します。
- `rebootafterinstall rebootafterinstall` - インストール後にシステムを再起動します。有効な値は `true` および `false` です。
- `rootpassword rootpassword` - インストールされているサーバーの `root` パスワードを変更します。コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符 (?) を入力できます。コマンドを実行したときに、パスワードの入力を求められます。
- `timezone timezone` - インストール場所のタイムゾーンを指定します。デフォルト値は `gmt` です。SUSE プロファイルの場合、有効な値は `timeconfig` コマンドで示されるタイムゾーンのいずれかです。

Windows のプロファイルの属性

- `description description` - 新しい OS プロファイルの説明です。
- `domainadmin domainadmin` - ドメイン内にシステムアカウントを作成する権限があるユーザーアカウントの名前です。
- `domainadminpassword domainadminpassword` - `domainadmin` ユーザーアカウントのパスワードです。
- `firstloginscript firstloginscript` - インストールの最後の設定段階後にユーザーが初めてログオンしたときに実行するコマンドを含むファイルの絶対パスです。この値は `\directory-path` である必要があります。
- `fullname fullname` - ユーザーのフルネームを引用符で囲んで指定します。

- `joindomain` *joindomain* - システムのドメイン名です。
- `joinworkgroup` *joinworkgroup* - システムのワークグループ名です。
- `language` *language* - インストールのデフォルトの言語/ロケールです。有効な値については、<http://www.microsoft.com/globaldev/reference/lcid-all.mspx> を参照してください。
- `languagegroup` *languagegroup* - インストールの言語グループです。タブ補完機能を使用すると有効な値が表示されます。
- `licensingmode` *licensingmode* - Windows を接続クライアント数モードでインストールするか、サーバー数モードでインストールするかを指定します。有効な値は `perseat` および `peruser` です。
- `licenseperserver` *licenseperserver* - サーバーに対して購入するクライアントライセンス数です。有効な値は数値です。
- `organizationname` *organizationname* - 組織名を引用符で囲んで指定します。
- `oemdriverpath` *oemdriverpath* - OEM の PnP ドライバがあるフォルダへの絶対パスです。この値は `directory-path` である必要があります。
- `primarydnsserver` *primarydnsserver* - プライマリ DNS サーバーの IP アドレスです。`joindomain` 属性と同時にこの属性が必要です。
- `productkey` *productkey* - Windows の各インストールのプロダクトキーです。
- `repartition` *repartition* - システムの最初のドライブのパーティションをすべて削除し、NTFS ファイルシステムで再フォーマットするかどうかを指定します。有効な値は `true` および `false` です。
- `rootpassword` *rootpassword* - インストール後のサーバーの root/管理者パスワードです。コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符 (?) を入力できません。コマンドを実行したときに、パスワードの入力を求められます。
- `secondarydnsserver` *secondarydnsserver* - 二次 DNS サーバーの IP アドレスです。`joindomain` 属性と同時にこの属性が必要です。
- `targetpath` *targetpath* - Windows をインストールするフォルダの絶対パスです。デフォルトは `\windows` です。
- `timezone` *timezone* - インストール場所のタイムゾーンです。例: "GMT Standard Time"
- `wtsallowconnection` *wtsallowconnection* - ほかのシステムからターミナルサーバーに接続可能にするかどうかを指定します。有効な値は `true` および `false` です。
- `wtsenable` *wtsenable* - ターミナルサーバーのインストールを可能にするかどうかを指定します。有効な値は `true` および `false` です。
- `wtslicensingmode` *wtsenable* - ターミナルサーバーでクライアントアクセスライセンス (CAL) を管理する方法を指定します。有効な値は `perseat` および `peruser` です。
- `wtspermissionssetting` *wtspermissionssetting* - セッション中のターミナルサーバーのセキュリティモードです。有効な値は `admin` および `all` です。

ディスクレスクライアントのプロファイルの属性

- `description` - 新しい OS プロファイルの説明です。

- *nfsops* - NFS オプションを *option/value* 形式で指定します。
- *ramdisksize* - RAM ディスクの容量です。デフォルトは 512M バイトです。

set role

ロールの説明を変更します。

形式

- ロールの説明を変更します。

```
set role role description description
```

パラメータ

- *role* - ロールの名前です。
- *description* - ロールの新しい説明です。

set server

サーバーの N1 System Manager 構成情報を変更するか、サーバーの現在の設定および状態で N1 System Manager を更新します。

機能説明

このコマンドでは、SSH 資格など、サーバーの実際の構成パラメータは変更しません。N1 System Manager でサーバーの管理に使用される構成情報だけを変更します。

形式

- サーバーの構成を変更する場合

```
set server server configuration-attributes
```

- サーバーの現在の設定および状態で N1 System Manager を更新する場合

```
set server server refresh
```

- サーバーで、OS 監視を含む管理機能に使用する IP アドレスおよび SSH 資格を変更する場合

```
set server server agentip agentip agentssh agentssh
```

- サーバーで OS 監視に使用する SNMP 資格を変更する場合

```
set server server agentsnmp agentsnmp  
set server server agentsnmpv3 agentsnmpv3
```


- サーバーの監視を有効または無効にする場合

```
set server server monitored monitored-state
```

- サーバー上のロケータランプを点灯または消灯する場合

```
set server server locator locator-state
```

- サーバー上で、OS 監視属性のしきい値を設定する場合

```
set server server threshold threshold
[criticallow value] [criticalhigh value] [warninglow value] [warninghigh value]
```

- サーバー上で、`fsusage.kbpacefree` ファイルシステム監視属性のしきい値を設定する場合

```
set server server [filesystem filesystem] threshold fsusage.kbpacefree
[criticallow value] [criticalhigh value] [warninglow value] [warninghigh value]
```

- サーバー上で、`fsusage.pctused` ファイルシステム監視属性のしきい値を設定する場合

```
set server server [filesystem filesystem] threshold fsusage.pctused
[criticallow value] [criticalhigh value] [warninglow value] [warninghigh value]
```

パラメータ

- `agentip` - サーバーで、OS 監視を含む管理機能に使用する IP アドレスを変更します。`agentip` は通常、サーバー上のプロビジョニングネットワークインタフェースの IP アドレスです。
- `agentsnmp` - サーバーで OS 監視に使用する SNMP 資格を変更します。`agentsnmp` の形式は、SNMP 資格の読み込みコミュニティ文字列です。
- `agentsnmpv3` - サーバーで OS 監視に使用する SNMP Version 3 資格を変更します。`agentsnmpv3` の形式は、ユーザー名/パスワードの組み合わせです。例:
`snmpv3-username /snmpv3-password`。コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符(?)を入力できます。コマンドを実行したときに、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。
- `agentssh` - サーバーで、OS 監視を含む管理機能に使用する SSH 資格を変更します。SSH ユーザーはサーバーの root 権限を持っている必要があります。`agentssh` の形式は、SSH 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。例:
`ssh-username/ssh-password`。コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符(?)を入力できます。コマンドを実行したときに、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。
- `filesystem` - 1 つ以上のしきい値を設定するファイルシステムを選択します。ファイルシステムでは、`fsusage.pctused` および `fsusage.kbpacefree` 監視属性のしきい値だけを設定できます。ファイルシステムを指定しなかった場合は、サーバー上のすべてのファイルシステムにしきい値が設定されます。値の例として、`/` や `/usr` があります。

- *locator-state* - サーバーのロケータランプを点灯または消灯します。有効な値は `true` (点灯) および `false` (消灯) です。
- *monitored-state* - サーバーの監視を有効または無効にします。有効な値は、`true` (有効) および `false` (無効) です。
- *refresh* - サーバーの現在の設定および状態で管理サーバーを更新します。更新される情報には、監視情報や現在インストールされているソフトウェア、その他詳細情報があります。
- *server* - サーバーの管理名です。
- *telnet* - ALOM ベースのシステムで管理機能に使用する `telnet` 資格を変更します。*telnet* の形式は、`telnet` 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: `telnet-username/telnet-password`。
 コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符 (?) を入力できます。コマンドを実行したときに、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。
- *threshold* - 1つ以上のしきい値を設定する OS またはファイルシステムの監視属性を選択します。有効な値には次のようなものがあります。
 - `cpustats.loadavg1min` - システムロードは、1分を超えるキュープロセスの平均数で示されます。
 - `cpustats.loadavg5min` - システムロードは、5分を超えるキュープロセスの平均数で示されます。
 - `cpustats.loadavg15min` - システムロードは、15分を超えるキュープロセスの平均数で示されます。
 - `cpustats.pctusage` - 全体的な CPU 使用率 (%) です。
 - `cpustats.pctidle` - 全体的な CPU アイドル率 (%) です。
 - `fsusage.kbpacefree` - 空きファイルシステム領域 (K バイト) です。`filesystem` 属性と同時に使用して、特定のファイルシステムのしきい値を設定できます。
 - `fsusage.pctused` - ファイルシステム領域の使用率 (%) です。`filesystem` 属性と同時に使用して、特定のファイルシステムのしきい値を設定できます。
 - `memusage.pctmemused` - メモリーの使用率 (%) です。
 - `memusage.pctmemfree` - 空きメモリー率 (%) です。
 - `memusage.mbmempused` - 使用メモリー (M バイト) です。
 - `memusage.mbmempfree` - 空きメモリー (M バイト) です。
 - `memusage.pctswapused` - スワップ領域の使用率 (%) です。
 - `memusage.kbswapused` - 使用スワップ領域 (K バイト) です。
- *value* - サーバー上で OS またはファイルシステムの監視属性のしきい値を設定します。`criticallow`、`criticalhigh`、`warninglow`、`warninghigh` しきい値の有効な値は属性によって異なります。パーセンテージで示される属性の有効な値の範囲は、0 から 100 です。`none` 値は、そのしきい値の属性の監視を無効にします。

構成の属性

- `guid guid` - (Windows のみ) サーバーのグローバル一意識別子 (GUID) を変更します。
例: 5D607F648-4003-AFA8-69E019A4496F
- `ip ip` - サーバーの管理に使用する IP アドレスを変更します。
- `ipmi ipmi` - サーバーの管理ネットワーク IP アドレスの IPMI 資格を変更します。 `ipmi` の値は、IPMI のユーザー名とパスワードの組み合わせ `ssh-username/ssh-password` です。Sun Fire V20z サーバーと Sun Fire V40z サーバーでは、IPMI 資格のパスワードだけが必要です。コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符 (?) を入力できます。コマンドを実行したときに、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。
- `name name` - サーバーの名前を変更します。
- `note note` - サーバーのコメントを変更します。コメントは引用符で囲む必要がありません。現在のコメントは新しいコメントによって上書きされます。
- `snmp snmp` - サーバーの管理ネットワーク IP アドレスの SNMP 資格を変更します。 `snmp` の形式は、SNMP 資格の読み込みコミュニティ文字列です。例: `read-community`。
- `ssh ssh` - サーバーの管理ネットワーク IP アドレスの SSH 資格を変更します。 `ssh` の形式は、SSH 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: `ssh-username/ssh-password`。コマンド行でパスワードを表示しないようにする場合は、疑問符 (?) を入力できます。コマンドを実行したときに、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。

set session

このコマンドは、現在のセッションのユーザーロールまたは出力形式を変更します。

形式

- 現在のセッションでのユーザーのロールを変更する場合

```
set session role role
```

- 現在のセッションでの出力形式を変更する場合

```
set session output output
```

パラメータ

- `output` - 現在のセッション用の出力形式です。有効な値は、`text` (デフォルト)、`html`、`xml` です。
- `role` - 新しいロールの名前です。

set user

ユーザーのデフォルトロールを変更します。

機能説明

管理サーバーを再起動するか、N1 System Manager を再起動すると、root ユーザーのデフォルトロールが自動的に Admin に設定されます。root ユーザーのデフォルトロールを別のロールに設定することもできますが、この設定は持続しません。

形式

- ユーザーのデフォルトロールを変更します。

```
set user user defaultrole defaultrole
```

パラメータ

- *defaultrole* - ユーザーの新しいデフォルトロールの名前です。
- *user* - ユーザーの名前です。

set module

モジュールを有効または無効にします。

機能説明

このコマンドを N1 System Manager のその他のコマンドと同時に使用しないでください。同時に使用すると、ほかのコマンドが正常に終了しない可能性があります。

形式

- モジュールを有効または無効にします。

```
set module module enabled enabled licensekey licensekey
```

パラメータ

- *enabled* - モジュールを有効または無効にします。有効な値は、true (有効) および false (無効) です。
- *licensekey* - モジュールを有効にするライセンスキーです。N1 Grid Engine モジュールのライセンスキーは、管理サーバーの MAC アドレスです。MAC アドレスを確認するには、管理サーバーで `ifconfig -a` コマンドを実行します。
- *module* - モジュールの名前です。有効な値は `n1ge` (N1 Grid Engine モジュール) です。

show

オブジェクトまたはグループの概要または詳細情報を一覧表示します。

機能説明

show コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。 application、 applicationprofile、 dhcpconfig、 firmware、 group、 job、 log、 notification、 os、 osprofile、 privilege、 role、 server、 session、 update、 user、 module。

help show *object* コマンドで詳細情報を得ることができます。

show application

N1 System Manager から使用可能なすべてのアプリケーションを一覧表示するか、特定のアプリケーションの詳細情報を一覧表示します。

機能説明

このリリースの N1 System Manager でプロビジョニングできるアプリケーションは N1 Grid Engine (N1GE) だけです。

形式

- 使用可能なすべての N1GE アプリケーションを一覧表示する場合

```
show application [all] type n1ge
```

- 特定の N1GE アプリケーションの詳細情報を一覧表示する場合

```
show application application type n1ge
```

パラメータ

- all - 使用可能なすべてのアプリケーションを一覧表示します。
- *application* - アプリケーションの名前です。

show applicationprofile

使用可能なすべてのアプリケーションプロファイルを一覧表示するか、特定のアプリケーションプロファイルの詳細情報を一覧表示します。

機能説明

このリリースの N1 System Manager でプロビジョニングできるアプリケーションは N1 Grid Engine (N1GE) だけです。

形式

- 使用可能なすべての N1GE アプリケーションプロファイルを一覧表示する場合

```
show applicationprofile [all] type n1ge
```

- 特定の N1GE アプリケーションプロファイルの詳細情報を一覧表示する場合

```
show applicationprofile applicationprofile type n1ge
```

パラメータ

- *all* - 使用可能なすべてのアプリケーションプロファイルを一覧表示します。
- *applicationprofile* - アプリケーションプロファイルの名前です。

show dhcpconfig

使用可能なすべての DHCP 構成を一覧表示するか、特定の DHCP 構成の詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用可能なすべての DHCP 構成を一覧表示する場合

```
show dhcpconfig [all]
```

- 特定の DHCP 構成の詳細情報を一覧表示する場合

```
show dhcpconfig dhcpconfig
```

パラメータ

- *all* - 使用可能なすべての DHCP 構成を一覧表示します。
- *dhcpconfig* - DHCP 構成の名前です。

show firmware

すべてのコピーされたファームウェアアップデートを一覧表示するか、特定のファームウェアアップデートの詳細情報を一覧表示します。

形式

- すべてのファームウェアアップデートを一覧表示する場合

```
show firmware [all]
```

- ファームウェアアップデートのリストを選別する場合

```
show firmware [model model] [type type] [vendor vendor]
```

- ファームウェアアップデートの詳細情報を一覧表示する場合

```
show firmware firmware
```

パラメータ

- *all* - すべてのファームウェアアップデートを一覧表示します。
- *firmware* - ファームウェアアップデートの名前です。
- *model* - ファームウェアアップデートの一覧をモデル名で選別します。有効な値には次のようなものがあります。
 - NETRA-240 - Netra 240
 - NETRA-440 - Netra 440
 - SF-T1000 - Sun Fire T1000
 - SF-T2000 - Sun Fire T2000
 - SF-V210 - Sun Fire V210
 - SF-V240 - Sun Fire V240
 - SF-V250 - Sun Fire V250
 - SF-V440 - Sun Fire V440
 - V20z - Sun Fire V20z
 - V40z - Sun Fire V40z
 - X4100 - Sun Fire X4100
 - X4200 - Sun Fire X4200
- *type* - ファームウェアアップデートのリストを選別します。このフィルタは、Sun Fire V20z および Sun Fire V40z システムのファームウェアアップデートの場合のみ使用可能です。有効な値には次のようなものがあります。
 - BIOS - サーバプラットフォームの BIOS
 - PIC - サービスプロセッサのオペレータパネル
 - SP - サービスプロセッサ
- *vendor* - ファームウェアアップデートの一覧をベンダーに基づいて選別します。

show group

すべてのサーバグループを一覧表示するか、特定のサーバグループの詳細情報を一覧表示します。

形式

- すべてのサーバグループを一覧表示する場合

```
show group [all]
```

- サーバグループの詳細情報を一覧表示する場合

```
show group group
```

パラメータ

- *all* - すべてのサーバーグループを一覧表示します。
- *group* - サーバーグループの名前です。

show job

すべてのジョブ、特定のジョブの詳細情報、または指定したフィルタに従って選別されたジョブを一覧表示します。

形式

- 特定のジョブの詳細情報を一覧表示する場合

```
show job job
```

- すべてのジョブを降順に一覧表示する場合

```
show job all
```

- ジョブ一覧をフィルタで選別する場合

```
show job [count count] [endbefore endbefore] [endafter endafter]  
[owner owner] [startbefore startbefore] [startafter startafter]  
[state state] [target server] [type type]
```

パラメータ

- *all* - すべてのジョブを降順に一覧表示します。
- *count* - 降順に一覧表示するジョブ数です。デフォルトは 500 です。
- *endafter* - 特定の日時よりあとに完了したジョブを一覧表示します。詳細な日時の形式は、あとの説明を参照してください。例: 2005-07-20T11:53:04。
- *endbefore* - 特定の日時より前に完了したジョブを一覧表示します。詳細な日時の形式は、あとの説明を参照してください。例: 2005-07-20T11:53:04。
- *job* - ジョブの識別番号です。
- *server* - サーバーの管理名です。特定のサーバーに基づいて、すべてのジョブを一覧表示します。
- *startafter* - 特定の日時よりあとに開始されたジョブを一覧表示します。詳細な日時の形式は、あとの説明を参照してください。例: 2005-07-20T11:53:04。
- *startbefore* - 特定の日時より前に開始されたジョブを一覧表示します。詳細な日時の形式は、あとの説明を参照してください。例: 2005-07-20T11:53:04。

- *state* - 特定のジョブ状態に基づいて、すべてのジョブを一覧表示します。
 - *completed* - 完了したジョブを一覧表示します。
 - *error* - エラー終了したジョブを一覧表示します。
 - *notstarted* - 開始されなかったジョブを一覧表示します。
 - *preflight* - 事前実行、テスト状態のジョブを一覧表示します。
 - *pendingstop* - ユーザーによって取り消されたジョブを一覧表示します。ジョブを取り消すには、すべてのサーバーでジョブの現在のステップが終了している必要があります。終了するまで、ジョブはこの状態になります。
 - *running* - 現在実行中のジョブを一覧表示します。
 - *stopped* - 取り消されたか、中止されたジョブを一覧表示します。
 - *timedout* - タイムアウトして完了しなかったジョブを一覧表示します。
 - *warning* - 警告で完了したジョブを一覧表示します。
- *type* - 特定のジョブの種類に基づいて、すべてのジョブを一覧表示します。
 - *addbase* - 基本管理機能の追加
 - *addosmonitor* - OS 監視機能の追加
 - *createos* - メディア (CD/DVD) または ISO ファイルから OS ディストリビューションを作成
 - *deletejob* - ジョブの削除
 - *discover* - サーバー検出
 - *loadfirmware* - ファームウェアアップデートのロード
 - *loados* - OS のロード
 - *loadupdate* - OS アップデートのロード
 - *refresh* - サーバーの更新
 - *removeosmonitor* - OS 監視機能の削除
 - *reset* - サーバーの再起動
 - *setagentip* - 管理機能設定の変更
 - *start* - サーバーの電源投入
 - *startcommand* - リモートコマンドの実行
 - *stop* - サーバーの電源切断
 - *unloadupdate* - OS アップデートのアンロード
- *owner* - ユーザー名です。特定のユーザーに基づいて、すべてのジョブを一覧表示します。

日時の表示形式

endbefore、*endafter*、*startbefore*、および *startafter* オプションには、次の日時の表示形式を使用します。

[CC]YY[-MM[-DD[Thh[:mm[:ss[Z]]]]]]

- CC - 世紀を示す 00 から 99 の範囲の 10 進数 (年を 100 で除算し、整数に切り捨てた値) です。たとえば 1988 年の CC は 19、2007 年の CC は 20 です。
- YY - 年を示す数の下 2 桁です。世紀 (CC) が省略された場合、69 から 99 の範囲の値は 1969 から 1999 年を表し、00 から 68 は 2000 から 2068 年を表します。
- MM - 月を示す数です。
- DD - その月の日を示す数です。DD の値は、月と年度に従って 1 から 31 の範囲で値を取ります。
- T - 日付/時刻の区切り文字です。
- hh - 時を示す数 (24 時間制) です。hh の値は 0 から 23 の範囲です。
- mm - 分を示す数です。mm の値は 0 から 59 の範囲です。
- ss - 秒を示す数です。ss の値は 0 から 60 の範囲です。
- Z - タイムゾーンを示します。Pacific Standard Time (PST) などの一般的なタイムゾーンや、-0800 などの RFC 822 タイムゾーンを指定できます。

show log

N1 System Manager または管理対象サーバーに記録されているすべてのイベント、特定のイベントの詳細情報、または特定のフィルタに基づくイベントを一覧表示します。

形式

- 特定のイベントの詳細情報を一覧表示する場合

```
show log log
```

- イベントを降順に一覧表示する場合デフォルトでは、最新の 500 個のイベントが一覧表示されます。

```
show log [count count]
```

- イベント一覧をフィルタで選別する場合

```
show log [after after] [before before] [count count] [severity severity]
```

パラメータ

- *after* - 特定の日時よりあとのイベントを一覧表示します。詳細な日時の形式は、あとの説明を参照してください。例: 2005-07-20T11:53:04
- *before* - 特定の日時より前のイベントを一覧表示します。詳細な日時の形式は、あとの説明を参照してください。例: 2005-07-20T11:53:04
- *count* - 降順に一覧表示するイベント数です。デフォルトは 500 です。

- *log* - イベントの識別番号です。
- *severity* - 特定の重要度のイベントを一覧表示します。有効な値には次のようなものがあります。
 - *unknown*
 - *other*
 - *information*
 - *warning*
 - *minor*
 - *major*
 - *critical*
 - *fatal*

日時の表示形式

after オプションおよび *before* オプションには、次の日時の表示形式を使用します。

[CC]YY[-MM[-DD[Thh[:mm[:ss[Z]]]]]]

- *CC* - 世紀を示す 00 から 99 の範囲の 10 進数 (年を 100 で除算し、整数に切り捨てた値) です。たとえば 1988 年の *CC* は 19、2007 年の *CC* は 20 です。
- *YY* - 年を示す数の下 2 桁です。世紀 (*CC*) が省略された場合、69 から 99 の範囲の値は 1969 から 1999 年を表し、00 から 68 は 2000 から 2068 年を表します。
- *MM* - 月を示す数です。
- *DD* - その月の日を示す数です。*DD* の値は、月と年度に従って 1 から 31 の範囲で値を取ります。
- *T* - 日付/時刻の区切り文字です。
- *hh* - 時を示す数 (24 時間制) です。*hh* の値は 0 から 23 の範囲です。
- *mm* - 分を示す数です。*mm* の値は 0 から 59 の範囲です。
- *ss* - 秒を示す数です。*ss* の値は 0 から 60 の範囲です。
- *Z* - タイムゾーンを示します。Pacific Standard Time (PST) などの一般的なタイムゾーンや、*-0800* などの RFC 822 タイムゾーンを指定できます。

show notification

すべての通知規則を一覧表示するか、特定の通知規則の詳細情報を一覧表示します。

形式

- すべての通知規則を一覧表示する場合


```
show notification [all]
```
- 特定の通知規則の詳細情報を一覧表示する場合

`show notification notification`

パラメータ

- `all` - すべての通知規則を一覧表示します。
- `notification` - 通知規則の名前です。

show os

N1 System Manager から使用可能なすべての OS ディストリビューションを一覧表示するか、特定の OS ディストリビューションの詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用可能なすべての OS ディストリビューションを一覧表示する場合

```
show os [all]
```

- 特定の OS の種類で使用可能な OS ディストリビューションを一覧表示する場合

```
show os type
```

- 特定の OS ディストリビューションの詳細情報を一覧表示する場合 (ディストリビューショングループの一覧を含む)

```
show os os
```

パラメータ

- `all` - 使用可能なすべての OS ディストリビューションを一覧表示します。
- `os` - OS ディストリビューションの名前です。
- `type` - OS ディストリビューションの種類です。有効な値は、`redhat`、`solaris`、および `suse` です。

show osprofile

使用可能なすべての OS プロファイルを一覧表示するか、特定の OS プロファイルの詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用可能なすべての OS プロファイルを一覧表示する場合

```
show osprofile [all]
```

- 特定の OS ディストリビューションに使用可能な OS プロファイルを一覧表示する場合

```
show osprofile os os
```

- 特定の OS プロファイルの詳細情報を一覧表示する場合

```
show osprofile osprofile
```

パラメータ

- *all* - 使用可能なすべての OS プロファイルを一覧表示します。
- *osprofile* - OS プロファイルの名前です。
- *os* - フィルタ条件として使用する OS ディストリビューションの名前です。

show privilege

使用可能なすべての権限を一覧表示するか、特定の権限の詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用可能なすべての権限を一覧表示する場合

```
show privilege [all]
```

- 特定の権限の詳細情報を一覧表示する場合

```
show privilege privilege
```

パラメータ

- *all* - 使用可能なすべての権限を一覧表示します。
- *privilege* - 権限の名前です。

show role

このコマンドは、すべての使用可能なロールまたは特定のロールの権限を一覧表示します。

形式

- すべての使用可能なロールおよびそれらに割り当てられた権限を一覧表示する場合

```
show role [all]
```

- 特定のロールの権限を一覧表示する場合

```
show role role
```

パラメータ

- `all` - 使用可能なすべてのロールとそれらのロールに割り当てられている権限を一覧表示します。
- `role` - ロールの名前です。

show server

使用可能なすべての管理対象サーバー、フィルタで選別した管理対象サーバー、または特定のサーバーの詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用可能なすべてのサーバーを一覧表示する場合

```
show server [all]
```

- サーバーの詳細情報を一覧表示する場合

```
show server server
```

- さまざまな属性または状態に基づいてフィルタで選別し、サーバーを一覧表示する場合

```
show server [ip ip[,ip...]] [jobcount jobcount] [model model]
[name name] [runningos runningos]
[hardwarehealth hardwarehealth] [oshealth oshealth] [power power]
```

パラメータ

- `all` - 使用可能なすべてのサーバーを一覧表示します。
- `ip` - サーバーの管理 IP アドレスに基づいて選別します。次の形式で、複数の `ip` のインスタンスを指定することができます。コマンドで区切って指定します。
 - `ip-address` - A single IP address.
 - `ip-address-ip-address` - IP アドレスの範囲。例: `10.5.10.1-10.5.10.100`
 - `subnet/mask-length` - サブネットとそのマスクの長さ。例: `10.0.8/24` または `10.0.8.128/28`
- `jobcount` - サーバーで実行中のジョブの数に基づいて選別します。`jobcount` は 0 または正の整数です。
- `model` - サーバーのモデル名に基づいて選別します。サーバーのモデル名は、`show server` コマンドの出力の「ハードウェア」列に表示されます。暗黙でワイルドカードによる検索が行われます。空白を含む値は引用符で囲む必要があります。有効な値には次のようなものがあります。
 - `NETRA-240` - Netra 240

- NETRA-440 – Netra 440
- SF-RSC – Sun Fire V490 および Sun Fire V890 (SP ベースの検出)
- SF-T1000 – Sun Fire T1000
- SF-T2000 – Sun Fire T2000
- SF-V210 – Sun Fire V210
- SF-V240 – Sun Fire V240
- SF-V250 – Sun Fire V250
- SF-V440 – Sun Fire V440
- SF-V490 – Sun Fire V490 (OS ベースと手動の検出)
- SF-V890 – Sun Fire V890 (OS ベースと手動の検出)
- V20z – Sun Fire V20z
- V40z – Sun Fire V40z
- X4100 – Sun Fire X4100
- X4200 – Sun Fire X4200
- *name* – サーバーの管理名に基づいて選別します。暗黙でワイルドカードによる検索が行われます。空白を含む値は引用符で囲む必要があります。
- *runningos* – サーバーで稼働中の OS に基づいて選別します。サーバーの稼働 OS は、`show server` コマンドの出力の「使用 OS」列に表示されます。暗黙でワイルドカードによる検索が行われます。空白を含む値は引用符で囲む必要があります。
- *hardwarehealth* – ハードウェアの健全性状態に基づいてサーバーを選別します。有効な値には次のようなものがあります。
 - *critical* – サーバーで障害が発生しました。適切な処置が必要です。
 - *good* – サーバーのハードウェアは正しく機能しています。
 - *nonrecoverable* – サーバーが、まったく機能できない状態です。回復できません。
 - *monitored* – サーバー上で監視が有効になっています。
 - *unknown* – サーバーからハードウェアの健全性に関する情報が返されません。
 - *unmonitored* – 監視が無効にされているため、サーバーからハードウェアの健全性に関する情報が返されません。
 - *unreachable* – サーバーにアクセスできず、ハードウェアの健全性に関する情報が得られません。この状態は、ほとんどの場合ネットワーク上の問題によって発生します。
 - *warning* – サーバーで潜在的な、またはすぐに発生する可能性のある障害が検出されました。問題が重大になる前に対策を取ることを推奨します。
- *oshealth* – 特定の OS リソースの健全性状態に基づいてサーバーを選別します。有効な値には次のようなものがあります。
 - *critical* – サーバーで障害が発生しました。適切な処置が必要です。
 - *good* – OS が起動し、サーバーは正しく機能しています。
 - *monitored* – サーバー上で監視が有効になっています。
 - *uninitialized* – OS 監視機能が追加されていないために、サーバーが OS リソースの健全性に関する情報を送信していません。
 - *unknown* – サーバーから OS リソースの健全性に関する情報が返されません。

- `unmonitored` – 監視が無効にされているため、サーバーから OS リソースの健全性に関する情報が返されません。
- `unreachable` – サーバーにアクセスできず、OS リソースの健全性に関する情報が得られません。この状態は、ほとんどの場合ネットワーク上の問題によって発生します。
- `warning` – サーバーで潜在的な、またはすぐに発生する可能性のある障害が検出されました。問題が重大になる前に対策を取ることを推奨します。
- `power` – 特定の電源状態に基づいてサーバーを選別します。有効な値には次のようなものがあります。
 - `on` – サーバーは電源が入り、動作しています。
 - `standby` – サーバーの電源は切断されていますが、起動などのコマンドに応答できる状態です。
 - `unknown` – サーバーから電源の状態情報が返されません。
 - `unreachable` – サーバーにアクセスできず、電源状態に関する情報が得られません。この状態は、ほとんどの場合ネットワーク上の問題によって発生します。
- `server` – サーバーの管理名です。

show session

セッションでのユーザーの現在のロールを一覧表示します。

形式

- セッションでのユーザーの現在のロールを一覧表示します。

```
show session
```

show update

すべての OS アップデートを一覧表示するか、特定の OS アップデートの詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用可能なすべての OS アップデートを一覧表示する場合

```
show update [all]
```

- 特定の OS ディストリビューションに使用可能な OS アップデートを一覧表示する場合

```
show update os os
```


- 特定の OS アップデートの詳細情報を一覧表示する場合

```
show update update
```

パラメータ

- *all* - 使用可能なすべての OS アップデートを一覧表示します。
- *os* - リストの選別に使用する OS ディストリビューションの名前です。
- *update* - OS アップデートの名前です。

show user

使用可能なすべてのユーザーを一覧表示するか、特定のユーザーの詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用可能なすべてのユーザーを一覧表示する場合

```
show user [all]
```

- 特定のユーザーの詳細情報 (ユーザーに割り当てられているロールおよびデフォルトのロールを含む) を一覧表示する場合

```
show user user
```

パラメータ

- *all* - 使用可能なすべてのユーザーを一覧表示します。
- *user* - ユーザーの名前です。

show module

インストールされているすべてのモジュールを一覧表示するか、特定のモジュールの詳細情報を一覧表示します。また、このコマンドは、モジュールが有効かどうかを示します。

形式

- インストールされているすべてのモジュールを一覧表示する場合

```
show module [all]
```

- 特定のモジュールの詳細情報を一覧表示する場合

```
show module module
```

パラメータ

- *all* - インストールされているすべてのモジュールを一覧表示します。
- *module* - モジュールの名前です。有効な値は *n1ge* (N1 Grid Engine モジュール) です。

start

オブジェクトを有効にするか、コマンドを発行します。たとえばサーバーの電源を入れて起動したり、通知規則を有効にしたりできます。

機能説明

`start` コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。 `group`、`notification`、`server`。

`help start object` コマンドで詳細情報を得ることができます。

start group

サーバーグループの電源を入れて起動するか、サーバーグループでリモートコマンドを発行します。開始した関連付けられたジョブからリモートコマンドの出力を表示することができます。

形式

- サーバーグループの電源を入れて起動する場合

```
start group group [netboot]
```

- サーバーのグループでリモートコマンドを発行する場合

```
start group group command "command" [agentssh agentssh] [timeout timeout]
```

パラメータ

- *agentssh* - リモートコマンド用に、サーバー上で SSH 資格を手動で指定します。
- *command* - サーバーのグループ上で実行する UNIX コマンドです。コマンドは引用符で囲む必要があります。開始した関連付けられたジョブからコマンドの出力を表示することができます。
- *group* - サーバーグループの名前です。

- `netboot-` グループ内の各サーバーに対して、それらのデフォルトのネットワーク起動インタフェースからの起動を強制します。このオプションを使用すると、N1 System Manager 環境の外部で構成する必要があるインストールサーバー設定を使用して、ネットワークを経由してサーバーをインストールすることができます。
- `timeout-` コマンドをタイムアウトさせるまでの秒数です。

start notification

通知規則を有効にする、またはテストします。

形式

- 通知規則を有効にする場合

```
start notification notification
```

- 通知規則の送信先および種類に基づいてテスト用の通知メッセージを送信する場合

```
start notification notification test
```

パラメータ

- `notification` - 通知規則の名前です。
- `test` - 通知規則をテストします。

start server

サーバーの電源を入れて起動するか、サーバーに対してリモートコマンドを実行します。開始した関連付けられたジョブからリモートコマンドの出力を表示することができます。

形式

- すべてのサーバーの電源を入れて起動する場合

```
start server all [netboot]
```

- 1つ以上のサーバーの電源を入れて起動する場合

```
start server server[,server...] [netboot]
```

- 1つ以上のサーバー上で、遠隔からリモートコマンドを発行する場合

```
start server server[,server] command "command" [agentssh agentssh]  
[timeout timeout]
```

- すべてのサーバー上で、遠隔からリモートコマンドを発行する場合

```
start server all command "command" [agentssh agentssh] [timeout timeout]
```

パラメータ

- *agentssh* - リモートコマンド用に、サーバー上で SSH 資格を手動で指定します。
- *all* - すべてのサーバー上で電源を入れる、またはリモートコマンドを発行します。
- *command* - サーバー上で実行する UNIX コマンドです。コマンドは引用符で囲む必要があります。開始した関連付けられたジョブからコマンドの出力を表示することができます。
- *netboot* - 各サーバーに対して、それらのデフォルトのネットワーク起動インタフェースからの起動を強制します。このオプションを使用すると、N1 System Manager 環境の外部で構成する必要があるインストールサーバー設定を使用して、ネットワークを経由してサーバーをインストールすることができます。
- *server* - サーバーの管理名です。
- *timeout* - コマンドをタイムアウトさせるまでの秒数です。

stop

オブジェクトを無効にします。たとえばサーバーを停止して電源をオフにしたり、ジョブを取り消したりできます。

機能説明

stop コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。group、job、notification、server。

help stop *object* コマンドで詳細情報を得ることができます。

stop group

サーバーグループを停止して電源をオフにします。

形式

- サーバーグループを停止して電源をオフにします。

```
stop group group [force]
```

パラメータ

- `force` - 通常の停止手続きを行わずに強制的に電源をオフにします。指定がない場合、デフォルトで通常の停止が実行されます。OSがインストールされていない、または基本管理機能が追加されていないサーバーの電源をオフにするときは、このオプションを使用する必要があります。
- `group` - サーバークループの名前です。

stop job

ジョブの実行を停止します。停止されたジョブは、`aborted` 状態になります。

形式

- 単一ジョブの実行を停止します。

```
stop job job
```

パラメータ

- `job` - ジョブの識別番号です。

stop notification

通知規則を無効にします。

形式

- 通知規則を無効にします。

```
stop notification notification
```

パラメータ

- `notification` - 通知規則の名前です。

stop server

サーバーを停止して電源をオフにします。

形式

- 1つ以上のサーバーを停止して電源をオフにする場合

```
stop server server[,server...] [force]
```

- すべてのサーバーを停止して電源をオフにする場合

```
stop server all [force]
```

パラメータ

- `all` - すべてのサーバーを停止して電源をオフにします。
- `force` - 通常の停止手続きを行わずに強制的に電源をオフにします。指定がない場合、デフォルトで通常の停止が実行されます。OSがインストールされていない、または基本管理機能が追加されていないサーバーの電源をオフにするときは、このオプションを使用する必要があります。
- `server` - サーバーの管理名です。

unload

サーバーまたはサーバーグループからソフトウェアをアンインストールします。

機能説明

`unload` コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。 `group` および `server`。

`help unload object` コマンドで詳細情報を得ることができます

unload group

サーバーグループからアプリケーション、OS プロファイル (ディスクレスクライアントのみ)、および OS アップデートをアンインストールします。

機能説明

このリリースの N1 System Manager でプロビジョニングできるアプリケーションは、N1 Grid Engine (N1GE) だけです。N1GE のマスターホストをアンインストールするには、`unload group` コマンドではなく、`unload server` コマンドを使用する必要があります。

形式

- サーバグループから N1GE アプリケーションをアンインストールする場合

```
unload group group applicationprofile applicationprofile type n1ge
```

- サーバグループからディスクレスクライアントのサポートを削除する場合

```
unload group group osprofile
```

- サーバグループから OS アップデートをアンインストールする場合

```
unload group group update update
```

パラメータ

- *applicationprofile* - アプリケーションプロファイルの名前です。
- *group* - サーバグループの名前です。
- *update* - OS アップデートの名前です。ユーザーが指定した名前が見つからなかった場合、このコマンドは、ファイル名が一致する OS アップデートのアンインストールを試みることに注意してください。OS アップデートの対応するファイル名を確認するには、`show update` コマンドを使用します。

unload server

サーバからアプリケーション、OS プロファイル (ディスクレスクライアントのみ)、または OS アップデートをアンインストールします。

機能説明

このリリースの N1 System Manager でプロビジョニングできるアプリケーションは、N1 Grid Engine (N1GE) だけです。

形式

- 1つ以上のサーバから N1GE アプリケーションをアンインストールする場合

```
unload server server[,server...] applicationprofile applicationprofile type n1ge
```

- 1つ以上のサーバからディスクレスクライアントのサポートを削除する場合

```
unload server server[,server...] osprofile
```

- 1つ以上のサーバから OS アップデートをアンインストールする場合

```
unload server server[,server...] update update
```

パラメータ

- *applicationprofile* - アプリケーションプロファイルの名前です。
- *server* - 1つ以上のサーバーの管理名です。
- *update* - OS アップデートの名前です。ユーザーが指定した名前が見つからなかった場合、このコマンドは、ファイル名が一致する OS アップデートをアンインストールしようとしています。OS アップデートの対応するファイル名を確認するには、`show update` コマンドを使用します。

オブジェクトのヘルプ

ここでは、N1 System Manager コマンドで管理可能なオブジェクトについて説明します。

次の表には、使用可能なオブジェクトが一覧表示されています。

オブジェクト	定義
<code>application</code>	N1 System Manager でインストールできるアプリケーションの1つ以上のインストールファイルです。
<code>applicationprofile</code>	アプリケーションプロファイル。アプリケーションのインストール方法を定義した構成ファイルです。
<code>dhcpconfig</code>	N1 System Manager で使用される DHCP 構成です。
<code>firmware</code>	サーバーのファームウェアアップデートです。
<code>group</code>	サーバーグループです。
<code>guidconfig</code>	サーバー名とそれに対応する GUID の一覧を含むファイルです。
<code>job</code>	特定の管理作業を行うためにユーザーによって開始され、追跡記録される非同期アクションです。
<code>log</code>	管理対象サーバー、または N1 System Manager から生成されたイベントです。
<code>notification</code>	ユーザーなどの外部ソースに N1 System Manager イベントを通知するタイミング、その送信先、送信方法を定義するためにユーザーが作成した通知規則です。
<code>os</code>	インストール可能な OS のイメージです。OS ディストリビューションともいいます。
<code>osprofile</code>	OS プロファイル。OS ディストリビューションのインストール方法を定義した構成ファイルです。

オブジェクト	定義
privilege	N1 System Manager 内でユーザーが特定の操作を行うことを可能にする、定義済みのアクセス権セットです。ユーザーに権限を付与するには、権限をロールに割り当てます。
role	N1 System Manager のユーザーに割り当て可能な権限セットです。N1 System Manager には、次の3つの定義済みロールがあります。ReadOnly、SecurityAdmin、Admin。権限を受けたユーザーは独自のロールを作成できません。ただしユーザーが定義済みのロールを変更することはできません。
server	管理対象サーバー。N1 System Manager が検出して管理することが可能なサーバーです。
session	アクティブな各ユーザーセッションに関連付けられているロールおよびその他コンテキスト情報です。ブラウザインタフェースおよび n1sh コマンド行インタフェースにログインしたユーザーごとに別々のユーザーセッションが1つずつ作成されます。ブラウザインタフェースおよびブラウザインタフェースのコマンド行は、同じセッションを共有するため、同じセッションロールを持ちます。
update	OS アップデート (Solaris オペレーティングシステムの場合はパッチまたはパッケージ、Red Hat オペレーティングシステムの場合は RPM)。
user	N1 System Manager へのログインを許可されたユーザーです。
module	N1 System Manager のアドオン機能です。

application

application オブジェクトは、N1 System Manager でインストールできるアプリケーションの1つ以上のインストールファイルから構成されます。

機能説明

application オブジェクトには次のコマンドを使用できます。create、delete、set、show。アプリケーションをインストールするには、load server または load group コマンドを使用します。

help *command* application コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

applicationprofile

applicationprofile オブジェクトは、アプリケーションのインストール方法を定義した構成ファイルです。

機能説明

applicationprofile オブジェクトには次のコマンドを使用できます。create、delete、set、show。アプリケーションプロファイルを使用してアプリケーションをインストールするには、load server または load group コマンドを使用します。

help *command* applicationprofile コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

dhcpconfig

dhcpconfig オブジェクトは、N1 System Manager の DHCP 構成を指定します。

機能説明

dhcpconfig オブジェクトには次のコマンドを使用できます。create、delete、set、show。

help *command* dhcpconfig コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

firmware

firmware オブジェクトは、サーバー用のファームウェアアップデートです。

機能説明

firmware オブジェクトには次のコマンドを使用できます。create、delete、set、show。ファームウェアアップデートをインストールするには、load server または load group コマンドを使用します。

help *command* firmware コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

group

group オブジェクトはサーバーのグループです。

機能説明

group オブジェクトには次のコマンドを使用できます。add、create、delete、load、remove、reset、set、show、start、stop、unload。

help *command* group コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

guidconfig

guidconfig オブジェクトはサーバー名とそれに対応する GUID の一覧を含むファイルです。

機能説明

guidconfig オブジェクトには load コマンドを使用できます。

help load guidconfig コマンドで詳細情報を得ることができます。

job

job オブジェクトは、特定の管理作業を行うためにユーザーによって開始され、追跡記録される非同期アクションです。

機能説明

job オブジェクトには次のコマンドを使用できます。delete、show、stop。

help *command* job コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

log

log オブジェクトは、管理対象サーバーまたは N1 System Manager から生成されたイベントです。

機能説明

log オブジェクトには次のコマンドを使用できます。show。

help *command* log コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

notification

notification オブジェクトは、ユーザーなどの外部ソースに N1 System Manager イベントを通知するタイミング、その送信先、送信方法を定義するためにユーザーが作成した通知規則です。

機能説明

notification オブジェクトには次のコマンドを使用できます。create、delete、set、show、start、stop。

help *command* notification コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

OS

os オブジェクトは、インストール可能な OS のイメージです。OS ディストリビューションともいいます。

機能説明

os オブジェクトには次のコマンドを使用できます。create、delete、set、show。

help *command* os コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

osprofile

osprofile オブジェクトは、OS ディストリビューションのインストール方法を定義した構成ファイルです。

機能説明

osprofile オブジェクトには次のコマンドを使用できます。add、create、delete、remove、set、show。OS プロファイルをインストールするには、load server または load group コマンドを使用します。

help *command* osprofile コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

privilege

privilege オブジェクトは、N1 System Manager 内でユーザーが特定の操作を行うことを可能にする定義済みのアクセス権セットです。ユーザーに権限を付与するには、権限をロールに割り当てます。

機能説明

privilege オブジェクトには次のコマンドを使用できます。show。ロールに権限を追加したり、ロールから権限を削除したりするには、それぞれ add role および remove role コマンドを使用します。

help *command* privilege コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

role

role オブジェクトは、N1 System Manager のユーザーに割り当て可能な権限セットです。N1 System Manager には、次の3つの定義済みロールがあります。ReadOnly、SecurityAdmin、Admin。権限を受けたユーザーは独自のロールを作成できますが、定義済みのロールを変更することはできません。

機能説明

role オブジェクトには次のコマンドを使用できます。add、create、delete、remove、set、show。ユーザーにロールを追加またはユーザーからロールを削除するには、それぞれ add user および remove user コマンドを使用します。

help *command* role コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

server

server オブジェクトは管理対象サーバーです。これは、N1 System Manager が検出して管理することが可能なサーバーです。

機能説明

server オブジェクトには次のコマンドを使用できます。add、connect、delete、load、remove、reset、show、start、stop、unload。サーバーの検出には、discover コマンドを使用します。

help *command* server コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

session

session オブジェクトは、アクティブな各ユーザーセッションに関連付けられているロールおよびその他コンテキスト情報です。ブラウザインタフェースおよび n1sh コマンド行インタフェースにログインしたユーザーごとに別々のユーザーセッションが1つずつ作成されます。ブラウザインタフェースおよびブラウザインタフェースのコマンド行は、同じセッションを共有するため、同じセッションロールを持ちます。

機能説明

session オブジェクトには次のコマンドを使用できます。set および show。

help *command* session コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

update

update オブジェクトはOSアップデートのことです (Solaris オペレーティングシステムの場合はパッチまたはパッケージ、Red Hat オペレーティングシステムの場合はRPM)。

機能説明

update オブジェクトには次のコマンドを使用できます。create、delete、show。OS アップデートをインストールするには、load server または load group コマンドを使用します。

`help command update` コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

user

`user` オブジェクトは、N1 System Manager へのログインを許可されたユーザーです。

機能説明

`user` オブジェクトには次のコマンドを使用できます。add、create、delete、remove、set、show。

`help command user` コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

module

`module` オブジェクトは N1 System Manager のアドオン機能です。

機能説明

`module` オブジェクトには次のコマンドを使用できます。set および show。

`help command module` コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。